

勢陽五鈴遺響 養藝郡

十七

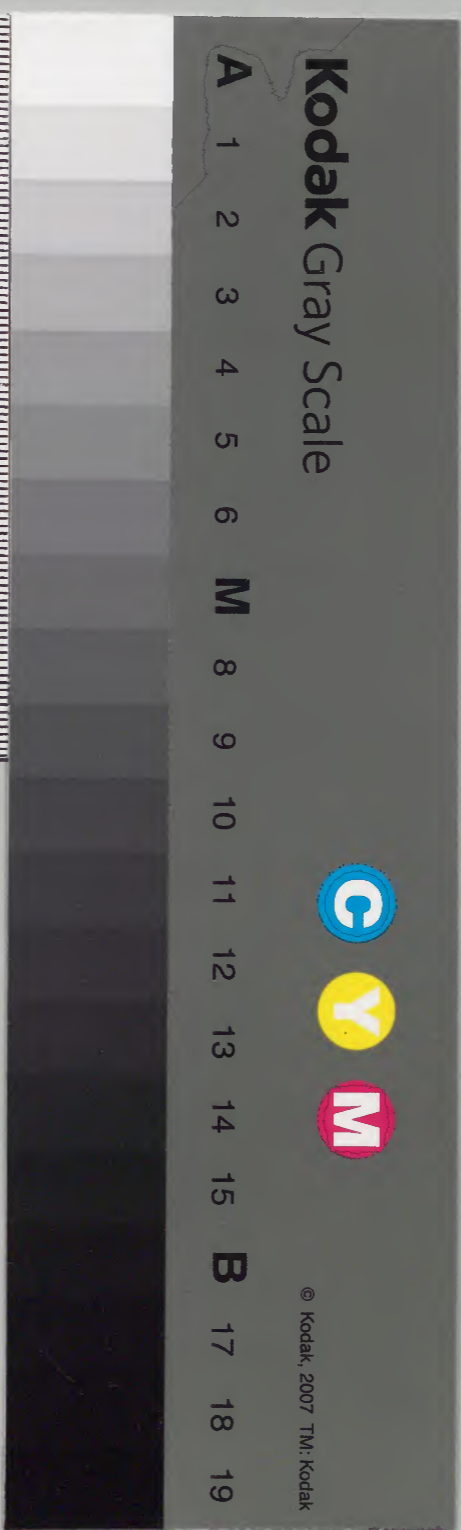
和書門
二九〇一九
函號類
架
冊

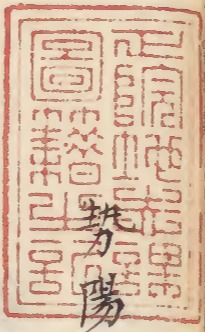
內閣文庫
和書類
二九〇一九
函號類
架
冊
二四
函
一七三



內閣文庫
番號和 29019
冊數 40 (17)
函號 172 310

内一〇七二五號





五鈴遺郷菴藝郡卷之一

内一〇七二五號

菴藝郡

菴藝

治卜載ル

名義ハ旧卜拾芥抄ニ菴

古史記云倭ノ淹知ノ造今惟フニ

菴藝卜轉ニ夕ル十ル

和州山辺

郡ニ庵治ノ村アリ續日本紀云豊野真人庵智

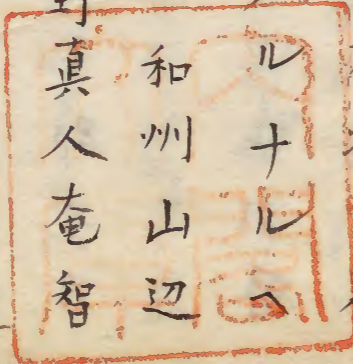
同祖也又大和国神别云庵智ノ連ハ天津彦根

命十四世孫建凝命ノ後也又類聚国史ニ弘仁

十年二月叙位庵智造吉備麻呂アリ日本靈異

記云大倭国十市郡菴智部又順和名類聚云菴

藝安無木今俗阿義ノ郡卜称ス阿武義ハ後世



轉訛メアフギノ郡氏祿セリ俊頼家集あぶぎ
郡ト扇子ニ寄セテ國風ニ詠セリ又阿武義ヲ
愈轉セシナリ夫木云俊頼いせみ侍リルコト
都より扇をぬくりて侍け人乃返シヨク
ル

山ノ嶺ニシテ海ノ穴迄山崩れ其の傍ニ
紀由章追考云家集ニ鈴鹿山ハアフキ郡ニア
リト侍レ氏別ナリ同國ナレハヨミツケテラ
レトト聞エ云云顯注密勘曰むう一い勢の國
あしがれ郡ニ侍ニけ人深山ニ入テ鹿を待
ル形ニハ風吹雨降リ景色たゞなリ
来向ニのり形ち悪クして長言ニ眼を星に

かややくらぬし檜原を祿らぬ一矢射當
りり矢を射いあらる其者走り逃レ血に跡
はきき尋たるる遠をる山を少一離れて跡中
み塚あり其中ニ隱色血又塚の前ニ神女有り
て檜原を招きたり形則弓を箒線をもり進
レハ神女思ふ一氣色もなきていしやう汝
射たれこのはは塚ニ久しき棲む鬼なり我此
鬼を捉えし此塚小年比住り汝此鬼を射殺
川をりは檜師其辺の采を刈塚の口ニ入
てを付て焼殺したり其後此神女を具し家
より帰る相傳事三年たりし檜師あつたる
ひたりと考む此鬼白地ニあつた出たり其間

子女失ぬ又泣悲みて尋行々行方と云ふに又
思も失ぬいよく思しむよは女常よりい
新所をえぬよ三輪の山とて杉とて門と出
付より是は杉とて大和國を尋りて三輪の神の
杉とていふは女とてさふへきとて祈りけ
きとて杉の御戸を穿てまみへおふ思も見とて
よ此男の志知たると感とてとてと誓とて神と
たれり是とていふとて神とて伊勢國とて
きとて郡の人行とていふとて印とて杉とていふ
たると諺曰鬼とて神とていふとては是なり

續後撰

藤原信實

下折目其喜也杉のさうとて雪のたなとてみとて也南

續千載

皇后宮内侍

かきとて尋とてえとてや三輪の山とて杉の杉とて印とて
前説ニ提テ詠セシナルヘシ蓋大和國奄智村
ノ例ニ拠レハ此郡ハ旧名奄智ニメ天津彦根
命孫建疑命ノ所知ナルヘシ己ニ兼名郡多度
神社ニ其遠祖天津彦根命ヲ奉祀シ同郡兼名
神社ニ其兒天櫛日命ヲ祀ル又當郡延喜式内
所載十三座ノ神社ノ中ニ建疑命ヲ奉祀セル
ヲ今其所傳ヲ失ヒテ神名ヲ誤ルナルヘシ其
謂ハ本州兼名郡ニ近キ本郡ノ有処ナレハ其
傳ナキニシテ非ス臆断トイヘ氏其拠ヲ索ヘ
シ故ニ奄智又大和州ニ效テ称スル処ニメ然

ルヲ安無木ニ轉セシテ必セリ其奄知ノ所名
ノ義ヲ解セサレハ此ニ又解スヘキ由ナシ猶
看宮後替セハ幸ナリ○神鳳抄云菴藝郡一丁
本宮御塩焼神田一丁荒祭宮四至神祭炮料同
所載有名未識部内宮石九御厨内宮丹庭野御
園玉野御園二宮為元御厨河合御園廣瀬御厨
英太御厨社御厨内宮玉野村御園○外宮神領
目錄所載未識部外為元御厨三十石外宮
小林御園敷一石外宮成富御園十二月三斗外
宮廣瀬御厨油三斗菓子外宮英太御園上分
一石五斗内米一石麥五斗此外口入料一石五
斗順和名類聚鈔第六菴藝郡奄藝郡安無田井

多井塩屋之保屋服部ハ止利黒田久呂窪田久保以
上六郷ナリ○今詮スルニ菴藝ハ衆名郡衆名
一志郡ニ一志ヲ隸メ名クカ如ク奄藝郡ニメ
菴藝ノ郷ヲ置ハ其徴ハ例メ上ニ曰シ其名ク
郷ハ何処リ未詳トイヘトモ例セハ三宅村ハ
郡家ヲ置知ナレハ此郷ニ属スベシ田井ハ今
山田井村アリ塩屋ハ今小丹ノ塩屋ト字メ大
部田村ニアリ服部ハ今郡山村服織神社服部
山等アリ黒田ハ南北黒田村アリ窪田ハ今久
保田村アリ古屋草紙及神風徴古録等ニ菴藝
郷ヲ省テ栗真郷ヲ加ヘテ六郷ニ作ルハ杜撰
也奄藝郡名ナルニ郷名ニ称スヘキヲ其例ヲ

不知メ省キタルナリ栗真ハ左ノ名ニメ旧記
ニ詳ナリ平家物語及東鑑太平記等ヲ併考ヘ
本郡ノ疆域ハ西ハ鈴鹿郡界ヲ限リ東ハ
滄海ヲ限リ尾州智多郡ニ接ス南ハ安濃郡界
ヲ限リ北ハ河曲郡界ヲ限リ郡中凡テ大河十
ニ楠原川窪田川越智川ノ小流アリ土立ハ稻
田圃蔬及海物多ク山林稍ナリ柴薪又産リ
本郡ノ方域ハ東海ニ居ス力故ニ陸地他州ノ
行程ナシ白子ヨリ三州褒美郡吉田駅ヘ海路
舟行二十四里尾州智多郡内海ノ庄ヘ舟行八
里同郡大野村ヘ七里舟行メ至ル同郡常滑村
ヘ同七里同師崎村ヘ十二里尾州智多郡篠島

ヘ十三里志州荅志郡神島ヘ十八里尾州智多
郡鳴海駅ヘ舟行十四里三州渥美郡伊良胡島
ヘ二十一里○村邑 文祿三年檢地 四拾三
村 正保二年六十四村 明曆中雜記所載
五十七村 小村二村 元祿十三年 六十九
村 今計四十九村 小邑七二 總七十一村
外無里五処○正稅高 文祿三年檢地 四
万四千八百七石一斗九升四合 内三万五千
三百九十三石七斗九升三合 田方九千四百
十三石四斗畠方 外高 八百八十七石五斗
七升六合新田 元祿十三年高四万四千二百
十二石九斗八升三合

福德 本郡ト鈴鹿郡西ノ界ニアリ正税百八十

三石津領ナリ

萩原^{イダ} 福德ノ良位ニアリ丘岡ニ傍テ平林ノ中

ニ民居ス正税百四十八石津領北畠家臣萩原

隱岐守同与志摩居住ス真善院名録ニ載ス

楠原 萩原ノ東ニアリ安濃津ヨリ鈴鹿郡関駅

ニ至ル京街道ノ官道ニ居宿駅ナリ平林田野

ノ間ニ民居ス正税八百五十三石津領ナリ楠

原無里其北ニアリ無里ノ名ハ村居無ノ田圃

アリ貢納ノ処ナリ本邑ニ隸メ耕鋤ス故ニ里

ナリト称ス所謂高野尾無里三宅無里楠平尾

無里椋本無里忍田無里等アリ各本郡ニ隸シ

リ本郡ト鈴鹿郡阿智本ニ此称アリ他郡ニ曾

テナキ処ナリ○楠原川駅ノ南ニアリ水源ハ

鈴鹿郡久我ノ山中谷ヨリ流テ本郡福德楠原

ヲ歴テ又鈴鹿郡国府ノ南ニ流注テ本郡三宅

ノ北ヨリ横地木鎌ヲ經テ白子寺家村ニ至リ

白子ノ南ヲ流テ磯山ニ至リ分派メ東海ニ入

レリ 神鳳抄云鈴鹿郡楠原片洲御厨七十五

町十五石 外宮神領目錄云楠原村鳥目一貫

文○今考ルニ片洲ノ地名ハ安濃郡椋本駅ノ

良位ニ今称ス処アリ然レハ楠原隣比ニ接ス

ヘキ地勢ナリ旧ハ本郡ニ属スナルヘシ神鳳

抄鈴鹿郡ニ楠原ヲ属セリ今ト異ナリ又楠原

本郡ト鈴鹿ノ郡界ニアリ古今ノ異差ニ人羨
久年中ハ鈴鹿郡ニ隸セルヤ未其真ヲ得ニ姑
クコ、ニ録ス片淵ノ地ハ今俗ニ倣テ安濃郡
ニ録ス雜記ニ其輦ヲ劬ヘリ

楠原砦趾 同処ニアリ應仁年中中山田長門守重
勝住セリ足利義政將軍ニ屬ス

石山觀音 本邑ヨリ北十八町石山ト云アリ嶺
上ニ高二丈餘石面ニ觀世音ノ像ヲ彫ス又長
一丈及長三丈許ノ巨嵩ニ弘陀仏及地藏菩薩
貌ヲ彫セリ方俗弘法大師ノ所作ト稱ス楠原
高野尾林村ノ三邑ヨリ旱魃ノ歲ニ雩ヲコ、
ニ祈レリ

林村 楠原ノ巽位ニアリ旧昔ハ今ノ地ヨリ良
位ニ本邑アリ鈴鹿郡関駅ニ到ル今ノ村邑ハ
本村ヨリ官道ニ近メ貨食茶家ヲ設タルナリ
勢陽雜記ニ旧名松葉平尾ト稱ス或云拜志氏
書リ旧号ナリト云ハ氏當今林村ト稱スルハ
明應年中ヨリ已後ナルヘシ領主林氏居セル
故ナリ往昔ハ然ラス古案ニ楠平尾松葉平尾
等ノ名ヲ載タリ正統ニ百廿三石旧ト津領今
分地久居領ナリ 明曆圖ニ林町二邑ニ録セ
リ松葉平尾及林ト稱スルナリ林氏住居ノ地
ニハ林町ト稱セシナルヘシ屬邑楠平尾同処
ノ東鈴鹿郡ノ界ニアリ或云林ノ名ハ明應中

林氏ノ所居ヨリ称スト云ハ神鳳抄云林御
厨三石口入三石兼久年中注進ノ御贄ニ林御
厨ト云ルレハ明應ヨリ二百六十六年前ナリ
然レモ林ト録スルハ後人ノ轉メ唇シモ詳ナ
ラス旧按ニ働テコヽニ奉テ後誓ヲ俟ツモノ
ナリ

林城 同地ニアリ今耕鋤ノ地トナレリ往昔野
呂庄左衛門尉居セリ明應年中長野ニ藤氏ノ
一族林越中守祐行往ス同嗣子民部少輔行藤
ニ至リ其嗣次兵衛尉英春ニ又織田上野介信
包息民部少輔信良相繼テ居ス此ニ至テ廢セ
リ林越中守氏族ニ同備後守同新之丞同掃部

頭同九之助同重兵衛尉等アリ真善院諸士名
録ニ載ス各北畠家ニ屬ス天正二年滝川左近
將監一益雲林院出羽守 等當城ヲ撃ント
テ楠平尾ノ北ニ今城ト云ニ屬城ヲ設テ征ス
此城ハ林楠原楠平尾等ノ軍卒篋居メ批戦ス
軍中ニ城主民部少輔行藤罹疾テ没セリ敵兵
ニ陰蔽メ其死ヲ告ス其子林次兵衛尉英春箕
裘ヲ継テ堅固ニ守護セリ又當城ハ鈴鹿郡鹿
伏兔ノ屬ナレハ柚ノ木越ノ嶮ヲ經テ鹿伏兔
ヨリ後卷メ雲林院ノ敵地ヲ襲フ力故ニ英春
力ヲ得テ愈固ク守リケル一益等機ヲ失ヒ退
陣ス又其後天正十一年豊臣秀吉當城ヲ伐シ

トテ城北ノ松草山ニ陣ス然レトモ守將怠リ
十少輒ク討撃難キヲ察メ其陣ヲ退ケリ林氏
後ニ秀吉幕下ニ属ス故ニ但馬州ニメ小祿ヲ
給食ス又天正十二年織田上野介信包ノ嗣子
民部少輔信良領一万石ヲ給フ此城ニ居セリ
慶長十七年遺跡ノ諱論ニ如テ公命ヲ背キ流
零メ後其蹟ヲ廢ス今耕田トナレリ

式外天神川原天神同如ニアリ拾遺及伊勢名所
四會等式内鈴鹿郡志波加支神社トスハ非十
リ式ニ鈴鹿ニ隸レリ然レ郡界ノ地ナレハ誣
ルニモ非ストイハレ其徴アルニ抑テ鈴鹿郡
川崎村ニ有トス其條ニ詳ニセリ

式内事忌神社 同処村落ノ北ニアリ方俗ハ宝
天王ト称ス祭神未詳○度會延經神名帳考證
云事忌神社木靈倭名鈔云樹神和名古大萬按
ニ事ハ古太也美字万音通ス今郡山郡ハ訓木
祝乎 度會正身神名帳再考證云社地未考忌
ハ出イ閉ハナリ心ノ動キ出ルヲ閉止ルヲ云ナレ
ハ慎ノ義ニ取ル事忌ハ言ヲ慎テ猥ニ不出ノ
義ナリ祀神一言主命ナルヘシ禍事一言善更
一言ト宜フニ抑レリ論語云古者言之不妄出
耻身之不達也 今詳スルニ延經考證ハ事
忌神社ノ名ニ抑テ事ハ古大ノ訓ナリ伊ヲ畧
メ美ハ万ニ通音ナルカ故ニ古太万ノ轉ニメ

即祭神ハ木靈神ヲ定メ社地ハ本郡郡山村ニ
アリ郡ハ木祝ノ訓義ナルヘシト云愚考ニ事
忌ノ義解シ難シ前證所謂ノ木靈ノ古太万ヲ
指スニ非ルヘシ猶郡山ハ木祝ノ訓ナルヘシ
ト云ハ非ナリ郡山ハ惣ノ郡縣ヲ始建ルニ必
ス其地ノ山岡ヲ疆界ニメ其郡ヲ分置ク如十
リ今ノ本郡郡山ハ上古所謂ノ服部山ニメ小
織山ノ旧名ニメ後ニ郡山ニ填タリ猶其地境
モ菴藝河曲ノ郡界ニ通シ然レハ郡縣ヲ分ツ
如ノ山界ニハ非ルヘシ正身再考證ニ事忌神
社社地未考事忌ハ言ヲ慎ニ猥ニ不癸ノ義ニ
メ一言生命ヲ祀ルナルヘシト云愚憶ニ又妻

也前ニ社号ニ名クル各故アリ事忌ハ祭神
ノ徳ヲ表メ名トスルハ必セリ然レ其地ヲ不
得メ地名ニ擬ルモノモ知難シ地名ニ擬リ或
ハ事實ニ擬ト云片ハ一身田粉河洞鶴事忌神
社考畧ニ云久保田村ノ属邑坂部ヨリ大路ヲ
二町許南東一行ハ石ノ小橋アリ此ヲ例禊洲
橋氏又礼^レ結^テ手橋氏云昔齋内親王齋宮ニ下向
坐ス片ノ例トメ此河洲ニテ禊シ齋殿ハ入セ
玉ヲトナリ今ハ田端ト鋤レテ古ノ姿ハナシ
昔ハ此辺ハ萱原ナリト云又齋殿ノ趾ハ例禊
洲橋ヨリ一町許東往還ヨリ四五間北ノ田中
ニ古塚アリ標ノ松モアリ里人ヨメ塚ト呼テ

俗談區々ナリ是ハ齋殿ノ跡ナルユヘイニ塚
ナルヲ嫁塚トイヒ誤ルナリ又例榎洲橋ヨリ
二町余モ東へ往ハ大古曾村ノ枝郷茶屋村ノ
西ノ入口北ノ方ニ鳥居アリ田ノ中ニ森アリ
是久保田八郷ノ一ノ宮ナリ延喜式神名帳菴
藝郡事忌神社ト云ハ此社也鳥居ノ額ニ一宮
春日トアルハ後世ノ誤ナリ春日ハ遙ニ後勸
請ニ奈ルヲ其證アリ云云既ニ新刊伊勢名所
圖會ニモ此ヲ摘テ載タリ又親ク村老ニヨメ
塚ノ由ヲ聞クニ昔時農民ノ一婦アリ其姑愚
頑ニメ性毒ナリ甚其婦ヲ忌惡ム一日數畝ノ
田ヲ一婦ニ命メ苗ヲ栽サシム終日卒ル事難

ク昏ニ及テ餓死セリ故ニ其屍ヲ田畝ノ間ニ
埋座ノ一團ノ塚ヲ築ケリ其趾ニメ後世傳ヘ
テヨメ塚ト稱スト云猶度會郡田邊村ニヨメ
田ト稱スアリ所傳略同ニ或ハ河内州嫁ソレ
リ堤等ノ俗談口碑ニ遺ル多シ各訛傳ニメ其
故ハ齋塚ノ類ナルヘシ然レニ事忌考ノ説信
シ難シ上世ノ官道ハ鈴鹿山ヨリ鈴鹿郡ニ入
テ菴藝郡界椋本ノ南ヲ經テ安濃郡萩野岡本
安乃河原ニ至リ内田ヨリ山中ニ入テ一志郡
新家ニ至リ今ノ官道三渡ニ出ルヲ正道トス
然ル片ハ久保田坂部安濃津ニ至ルノ路ハ絶
テ官道ニ非ス齋内親王御行ニ此地ヲ經行ス

ルノ謂ナレ猶七瀬ノ被禊ハ齋宮式ニ載ラレ
此地ニ禊ノ例ナレ各無誓ノ言トスヘシ其例
禊洲齋塚等ノ臆度ニ比メ事忌神社ハ大古曾
森村ノ春日社ニ定難ニ前輩夏忌神社ハ本郡
林村ノ北ニアリ八宝天王ト俗稱スル社ヲ充
ツ奈神木ノ靈ト云式社案内記是ニ拠レリ勢
陽俚諺ニ木僕神ヲ祀レリト云名考證ニ從ヘ
リ竜咫近神名帳考正及勢阳雜記拾遺伊勢名
所圖會等本邑天神社ヲ式内志波加支神社ニ
充ツ既ニ鈴鹿郡河崎村ニ標セリ此地ノ差存
スルニ拠テ因ニ記ス此例ニ同シ今憶フニ林
村ニ木灵ノ神ヲ奉祀スルト云ニ拠テ其地

ヲ指宛タルナルベシ夏忌ノ名ハ木灵神ニ拠
ル片ハ鮮ニ難シ前ノ禊所齋塚ニ拠片ハ被戸
神瀬織津姫命ヲ祀ルニ云ヘシ然レ其徴ヲ得
難シ故ニ姑ク前説ニ從テ林村ノ條ニ載スト
云ヘ氏其祭神ハ未真ヲ得ニ故ニ此ニ闕如メ
後誓ヲ僕モノナリ

観音庵寺

同处旧地アリ雜記所載大同元年建
立セシ林ノ観音天正二年滝川一益カ役ニ兵
燹ノ為ニ灰燼トナリ廢ス其趾ナリ○今詳ニ
スルニ鈴鹿ノ賊ヲ誅メ後田村磨呂ノ營建ス
ル処ナリ方俗ノ弊説アリ信ニ難シ只旧寺ニ
メ天正年間ニテ存在セシナリ

中繩 林村ノ南ニアリ官道ニ民屋ス往昔ハ原
野ニノ村邑ナレ元和二年丙辰當今領主藤堂
和泉守高虎更ニ所置ナリ楠原ト安濃郡棕本
ノ中間ニアリテ新ニ準繩ヲ設タル意ニノ中
繩ト名ク正統千七百十三石津領ナリ伊勢名
所圖會ニ年貢赦免ノ地ト録スハ非ナリ○西
南ノ方ニ岩塔力岳アリ本州ノ高山ナリ

古街道 中繩ト棕本ノ北ニテ安濃郡官道ニ稍
ク隸レリ棕木ハ阿濃郡也中繩ヨリ良位ニ其
邑ヲ歩スレハ奄藝郡ナリ延暦中京師ヨリノ
古街道ト云ハ本郡中繩ヨリ二丁許南ニ至リ
又東ニ至リ安濃郡萩野又阿野同松原ニ至リ

野田神戸或國見坂一志郡新家及一志ノ駅ニ
至ルナリ故ニ安濃郡内田ニ長源寺ノ伊勢日
向ノ旅客ノ夢中ニ魂ノカハリシト云所傳有
往復ノ地ナレハナリ當今ノ地勢ニテハ無誓
ノ譚ノ如シ其古昔ヲ檢メ知ヘシ一志ノ駅ヨ
リ南ハ飯高飯野郡ノ條ニ詳ニセリ

高野尾 中繩ノ巽位ニアリ旧ト劔尾ト書メ夕
カノヲト訓ス本邑字ハ天王山ト称ノ一邑ノ
鎮主素盞烏命ヲ祀リ草薙劔ノ因ニ拠リテ劔
尾ト書シナリ中世ハ高野尾ト称ス宝永元禄
年間ニ然リ其以往ハ鷹ノ尾ト称セリ領主ノ
莫蹟アリ正統千二百六十五石津領ナリ高野

尾無里本邑ノ北ニアリ屬セリ前ニ録ス耕鋤ノ地ニメ民居ハ十二

樹神山長泉寺 同処西ノ山麓ニアリ本尊馬頭

觀音安阿弥作安濃郡順礼札処ナリ

豊久野 高野尾ヨリ野崎ニ至ル官道ノ松林十

リ四方曠原ニメ耕鋤ノ地モ稍クアリ其余ハ

松林ヲ方浴豊久野松原ト称ス其往還ノ傍ニ

古松一株アリ錢カケ松ト俗称ス 雜記所載

近郷ノ俗諺曰昔遠国ヨリ伊勢叅宮ノ者此処

ノ茶店ニ憇ヒ主ニ尋ケルハコ、ヨリ宇治山

田マテノ道イクハクト問フ主謂ハ十日過ル

豊久野七日過ル長野三日渉ル三渡リナリト

云テ歎キケレハ旅者曰其旅食ノ料モナシ信

心ハ神明モ受玉フヘシイサヤ帰路ニ赴ヘシ

トテ寸志ノ賽錢ヲ繫テ此松ノ枝ニ掛テ遙拜

シ故郷ニ帰ケリ其茶店ノ主彼錢ヲ己力有ニ

セシ其樹ニ倚レハ忽蛇ニ寢メ恐レシゲ

ノ其樹ニ倚レハ忽蛇ニ寢メ恐レシゲ

野外ノ住家モ憂アリケル故ニ住果テ

ナリケル又彼旅者故郷ニ帰リ如此ノ

由テ友人ニ語リケレハ歎レテ歸来スルヲ曉

シテ明年又伴ヒテ參宮セシニ再ヒ松ノ下ニ

至リ嚮ニ錢カケシ枝ヲ見レハ其錢存セリ又

茶店ノ主ノアリサマヲ郷人ノ語ルヲ聞テ信

心肝ニ銘シ參宮ヲ遂侍リ其略ヲ挙テコ、ニ



録云倭漢三十圖會云豊國野在安濃郡掠木
與窪田間野有並松十有餘丁称安濃松原者是
乎相傳曰昔參宮人到于此倦松原ノ長途問向
來ノ里程土人戲曰此當十日行又長野並樹七
日行也旅人恍然掛一貫錢於松枝伏拜神宮方
還干国而他人見彼錢以為夕蟠蛇而無敢取之
既而又知其欺復參宮ノ見之錢所在如故名其
松曰錢掛松 寛保中東都菊岡治涼所著諸国
里人談云載ス上ニ相同シ又一説武藏国ノ
廻国ノ者ヨ、ニ來リ後來ノ籠トテ裁置タル
樹ニテ武藏松氏称スト云伊勢路名所圖會云
伊勢国民部図帳殘篇曰豊國野虫喰神靈ハ豊

斟停尊也是ヲ以テ考フレハ昔此野ニ豊斟停
尊ノ社アリシカ後此社ノ失シエハ其跡ニ松
ヲ植テ錢掛松トナリタルナリ又惠日堂旧記
云錢カケ松ハ往昔雄略帝ノ御宇丹波國比沼
山真那井カ原ニ坐ス御食津御神等由氣大神
ヲ伊勢国山田原へ迂シ奉ル氏銚鹿神戶ヨリ
ノ此野ニ假宮ヲ作り暫シ御ヤズニ有其行宮
ノ御跡トテ等由氣野ト云又錢カケ松ト云テ
ハ其假宮ノ御趾ヲ失ハシトテ標ノ松ウヘテ
レタルニヤノ字ニハマツバカリヲヒテ小祠
モナクナルマ、アタリノ人々ハコ、ニ來テ
等由氣大神ヲ遙拜シ御供ノ料トテ松カ枝ニ

錢ナトカケテ穀ツ物ノ實ノリサカエヲノミ
願フユエニオノガテニ錢カケ松ト呼ナリ云
云多氣窓螢卷一曰むらし外宮此御神也
良いともせむゆりそのとらを止申氣
野とらふありかふ野ゆへ大邪宮くまひ
くといちい志の此跡とせば路ありとそ此こ
とも野故に語にまふ地理志とも云々
も或曰い何む志のいとむと此く語ト注セリ
然氏古書傳字ヲ歴タレハ其詳ヲ得ス旧本ノ
所字ニ從テ録セリ○今註スルニ雜記及里人
談所載ハ俗弊ノ説ナリ又武藏松ト謂ニモ其
徴ヲ不得其故ハ前号ニ記ス如ク上世ハ此野

ヲ不歴メ椽木ヨリ南ニ至テ萩野安濃ニ至レ
リ古街道ニノ今ノ街道ハ後土御門院ノ朝明
應七年ヨリ安濃津ニ至ル官道ハ関カレタル
ナリ今ヨリ四百年前ナリ猶惠日堂旧記ニ豊
受大神鈴鹿神戸ヨリ度會ノ山田ニ遷幸ノ片
此野ニ憇ハセ玉フ行宮ノ趾ト謂フモ鹵莽ナ
リ遷幸次第記等ニ伊勢国鈴鹿神戸御一宿坐
次ニ山辺ノ行宮御一宿坐スト載タリ山辺ノ
行宮ハ一志郡新家村物部神社ノ地ナリ前ニ
謂古街道ニメ鈴鹿郡ヨリ一志郡ト次第ノ新
家ニ至ル街道ハ今ノ官道ニ非ス然レハ此野
ニ行宮ノアルヘキ如ク猶無誓ノ言ナリ伊

勢国民部省圖牒ト称スハ絶テ其徴ナシ日本
惣国伊勢風土記ノ内ナリ殘篇ト云ヘ氏和銅
延長ノ二本ヲ檢スルニ此辞ナシ世人ヲ欺ク
偽妄ナリ真トシ難シ蠹簡殘冊ナレハ其全本
ハ難檢カ故ニ此言ヲ設タルナリ亮ニ盜ムハ
ニ豊國野ハ神鳳抄云内宮豊久野御厨三斗ト
云ニ扱テ妄作ナリ多氣窓虫ノ説ハ確論ナリ
止由氣野ヲ後世轉訛ノ豊久野ト謂シモ然リ
地理志ハ盛尚カ所作ト同昏ニ見タリ今不傳
トイヘ氏材親郷ノ記ニ從テ徴ト云ヘシ今天
明寛政中親見スルニ官道松林ノ中鈴鹿ヨリ
至ル道ノ左傍ニ枯槁メ稍ク三尺許ノ旧幹ヲ

遺セリ注連ヲ引画馬ヲ掲リ村民ノ設ク処ニ
メ千歳ノ後其地ニ失フヘシ國人錢カケ松ト
名ク謡曲ヲ作レリ其趾ノ遺失ス氏筆録及口
牌ニ存セハ遺憾ナカルヘシ

野崎 高野尾ノ巽位ニアリ田野松林ノ傍ニ民
居セリ正稅八百十五石紀州白子領ナリ旧ト
山田井郷ナリ今ノ官道ヨリ東一町許ニアリ
野崎旧ト今ノ地藏堂ヨリ良位ニアリシカ今
ノ官道ニ出テ賃茶店ヲ設テ戲射ヲメ旅客ノ
情ヲ慰ム方俗ニメツタ的ト云フ設テ竹箭ヲ
用テ木偶或ハ鳥獸ノ形ヲ射中ルヲ遊戲トス
兒童ノ戲ナリ其墟ヲ本里ト田圃ノ字ニ遺レ

リ山田井本郷トイヘ氏路次ノ順ナルニ從テ
此ニ載ス

山田井野崎ノ東一町餘ニアリ紀州白子領和
名鈔田井郷也田野ノ間ニ居ス

式内多為神社 同処東ノ入口ニアリ方俗東出
御厨八王子ト称ス三社アリ東ハ多為社中ハ
八王子西ハ若宮八幡ナリ度會延經神名帳考
證云多為神社稻灵倭名鈔云田井多河内国田
坐神社今在山田井村度會正身神名帳再考證
云多為神社和名鈔ニ田井多井祀ル神水靈十
ルヘシ社地山田井村ニアリ○今詳ニスルニ
延經考證ニ多為神社多井田井ニ通スルニ拠

テ河内州田坐神社ニ同ク山田井名ニ應スル
ヲ此処ニ所在トスト云ナリ愚考ニ前證是ト
スヘシ今方俗東御厨八王子社ト称ノ生土神
トス村落ノ東ノ叢林ノ中ニアリ故ニ東出ト
謂ナルヘシ然レ氏御厨ノ名神鳳抄ニ所見ナ
シ今古其名ノ差タルモ知難シ式社案内記及
勢陽俚諺同轍ニメ奈神稻靈神トス勢陽俚諺
ハ稻倉神トス稻灵魂ノ誤ナルヘシ正身再考
證ニ多為田井ト相同ニ拠テ祭神水灵ナルヘ
シト云然レ氏和名類聚抄田井ハ郷名ナル片
ハ其地ニ存スル神社ナレハ地名ヲ称スル片
ハ強テ水灵ニ拘ルニ非ス愚考ニ田井ニ拠テ

定記ル片ハ稲靈魂ニメ穩當ナリトス井泉ニ
扱テ水神トスルモ的然ト云ヘ長前證ヲ排セ
ニトスノミニメ敢テソノ徴ヲエカタシユヘ
ニシハラクゼンセツニシタガツテ稲鬼神ヲ
奉祀スル処ト定ムヘシ
松齡山千福寺山田井ニアリ方俗過ノ坊ト称
ス真言宗本尊十一面觀音行基大士作日護摩
ヲ修セリ紀州領主ヨリ國印四石八斗五升ヲ
免除ナリ
小野田山田井ノ北ニアリ野田ニ對ノ小野田
ト称ス正稅四百七十三石紀州白子領也田野
林間ニ民居ス

野田小野田ノ北ニアリ田野ノ間ニ民居セリ
正稅四百八十六石紀州白子領ナリ
山室野田ノ北ニアリ正稅千百廿石旧ト津領
今久居領ナリ
智得山福泉寺同処ニアリ本尊千手觀世音ナ
リ
三宅山室ノ良位ニアリ正稅千百五十五石紀
州白子領津領入組ナリ三宅無里属セリ三宅
ト称スルハ屯倉ミヤケ或ハ郡家ト記メミヤケト訓
ス俗ニ三宅ト轉シタルナリ古史記景行御卷
此之御世定田部又定東之淡ノ御門又定膳之
大伴部又定倭屯倉又作茨田堤及茨田三宅又

立副五処之屯倉以獻日本吞記天武御卷臻于
來名郡家或國司府ニ穀倉ヲ置テミヤケト称
ス其掌ル人ヲ三宅ノ苑人ト云ナリ天智帝ノ
朝ニ三宅ノ連ヲ此國ニ補セラル日本天武記
ニ在申ノ乱ニ至伊勢鈴鹿國司三宅石床等率
五百人未帰ス三宅氏ニメ國司ノ府ノ別府或
ハ穀倉ヲ置テナレハミヤケト称スナリ神宮
雜例集ニ云河曲神戸ノ預大鹿武則ト云モ此
地ノ屯倉ヲ兼称スルノ謂アルヘシ後号大鹿
三宅神社ノ條ニ詳ニセリ故ニ後世ニ臻リ領
主三宅新左衛門尉居セリ又慶長年中豊臣秀
吉ノ臣加藤肥後守ノ從兵ニ三宅角左衛門尉

ト云勇士モ此地ヨリ出タリ孰レ鈴鹿郡國府
ニ國司ノ衛ヲ置キ三宅ノ郡家ニ郡司ヲ居ト
云片ハ本郡ノ郡司ノ所居ナルヘシ故ニ後世
ニ至リ三宅氏ノ傳系ニメ所領シケル事必セ
リ鈴鹿郡本府ノ國府村ノ條ニ詳ニセリ
式内大鹿三宅神社 同廻ヨリ十丁良位ニ有方
俗千力大明神ト号ス祭神大香山戸臣神○式
社案内記ニ加和良社ニ宛ルトイヘ氏今考ニ
長法寺村ヨリ一町巽位三宅ヨリ十町良位ニ
アリ里俗千力大明神ト称ス今モ三宅長法寺
ノ産土神トス然レハ千力ハ租税ノ名ニメ三
宅ノ名ニ合セ二邑ノ惣社トスル廻ナレハ三

宅社ニ決定スヘシ旧音三宅村三宅神社ノ旧地ハ今ノ三宅ヨリ五町ハカリ山谷ヲ踰テ一丁許小山ニ登ル処森アリ村ニモ此地ニ在ストイヘト後ニ国府川ノ南向ニ移シ今ノ地ナリト云今ノ社地五社並座ス大老杉樹アリ度會延經神名帳考證云大鹿三宅神社大香山戸臣神御年神古事記曰大年神娶香用比賣生子大香山戸臣神次ニ御年神按ニ鹿与香同訓三宅ハ屯倉也神宮雜例集云河曲神戸ノ預大鹿ノ武州大鹿与中臣同祖ナル莫見上此郡有民人如此此大香山戸臣ノ神地矣土位ハ中臣ニ配中臣神加臣ノ字御年神ハ賣矣賣ヲ為

天先ニシ地後天今在三宅村稱千力神祝詞千稅之轉欽度會正身神名帳再考證云大鹿三宅神社雜事記ニ川曲神戸ノ預大鹿武則ト云人ニヘタリ此大鹿氏ノ世々掌ル処ノ屯倉ヲ示云日本紀注ニ屯倉此曰弥夜氣此神社屯倉ニ祀ル処ニメ如前例倉稻魂ナル今所在モ三宅村ト云考證一本頭注云此三宅村ハ菴藝郡ナリ可疑トアリ可考○今詳ニスルニ延經考證ニ大鹿三宅神社名ニ処テ大鹿大香同訓ナルヲ以テ祭神大香戸臣神御年神ヲ併祀ルトシ古事記ヲ引徵シテ大香山戸臣ハ兄御年神ノ弟大香戸ハ地靈中央ニ應ス故ニ中臣神ニ配

ス故ニ臣ノ字ヲ加ヘタリ御年神ハ穀ノ灵ナ
リ其穀ヲ天トシ香山戸ノ神ノ地徳ヲ先ニメ
祭リ後ニ御年ノ神ヲ祀ル猶三宅トハ屯倉ニ
ノ神宮雜例集ニ河曲神戶ノ預大鹿ノ武則了
リ大鹿中臣ト同祖ナリ故ニ此地ニ大鹿姓氏
人アリ今此神社ハ三宅村ニ所在ニメ今カ明
神ト称ス祝詞文ノ今税ノ轉メ今カト称ス処
ナルヘシト云愚考云大鹿三宅ノ名ハ前説ノ
如ク大鹿氏ノ掌ル処ノ屯倉ノ謂ナルヘシ大
香山戸神ヲ祀ルハ大鹿氏ノ中臣ト同祖ニメ
此ニ祀ルト云モ然リ其穀靈御年神ヲ併祀ル
ハ屯倉ノ謂ナリ方俗今今カト称スルモ租税

ヲ今カラト訓シ官名ニ主税ヲ假訓スルモ同
シ各前ニ従フヘシ又再考證ニハ雜事記ニ大
鹿武則ヲ載スト云ハ非也雜例集ノ誤ナルヘ
シ屯倉ノ地ナル故ニ前ニ例スル如ク倉稻魂
ヲ祭ルト云ハ偏ナリ常ノ屯倉ハ然ナルヘシ
此ニ大鹿三宅ト云片ハ稻倉鬼ヲ祀ルトノミ
ハ定難シ大鹿ノニヲ冠シメタル謂ナシ其姓
氏ノ人は是ヲ掌リ其祖神及御年神モ併祭ルト
云前考證是トスヘキナリ再考證ニ三宅村ハ一
本菴藝郡ニアリ疑フヘシト云然リ三宅ハ河
曲ト菴藝郡ノ界ニアリ今本郡ニ属ス河曲ニ
通キ故ニ今古ノ差ナリト憶ヘリ前ノ如ク延

喜式ト今郡ノ差異ニ拠リ鈴鹿郡三宅神社所
在ニ拠テ前輩紛々トノ其地ヲ誤ル多シ古屋
双紙ニ祭神稻倉神鈴鹿郡三宅神社トス式社
案内記ニ三宅神社菴藝郡三宅村ニアリ八王
子ト称スト云加波良神社同処八丁良位ニ了
リ俗今力大明神ト号ス案内記ハ八王子ヲ三
宅神社ニ充テ力明神ヲ加波良神社ニ充ツル
ト云然レ片テ力ハ租税ノ訛称スル片ハ屯倉
ニノ大鹿三宅神社トノ是ナリ勢陽雜記三宅
神社ハ三宅村今力大明神トス又式社案内記
ニ加和良神社三宅村良位八町号今力大明神
又勢陽雜記今力大明神ハ即三宅神社今力

雄命ニ坐スト云勢陽雜記拾遺今力大明神長
法寺村ニ坐ス祭神今力雄命式内加波良神
社トス各三宅村ト称スルニ拠テ鈴鹿郡三宅
神社ヲ混シ或ハ今力明神ト俗称スルニ拠テ
今力雄命ニ附會スル俗弊區々トノ介弁シ
難シ今勢陽雜記所載ニ拠テ考ルニ今力大明
神ハ三宅神社ニノ今力雄命ニ御坐シ上古
ハ大社ノ由ナリ三宅某ノ領主ナリシマテ御
供田二十石ヲ有シ織田上野介信色領主ナリ
シヨリ神田モ役收ス云云是大社ニノ神田モ
若テアリシト云ハ式内ノ大社ナル謂ナリ其
大鹿三宅神社ナルハ三宅ノ名アルニ延喜式

河曲ニ屬スルニ拠テ此ニ所在ヲ以テ知ルヘ
シ直ニ三宅神社ハ延喜式鈴鹿郡ニ屬ノ今國
府村ニ坐ス方俗由津里波明神ト稱スルヲ充
ヘシ其故ハ三宅神社即屯倉ニノ鈴鹿國府國
司ノ所居ニ置処ナリ故ニ三宅屯倉同訓ナル
ヲ以テ偏ヘニ三宅神社ト云ナリ猶延喜式ニ
所載煥然タル國府ノ地ヲ他郡ニ誤リ菴藝郡
三宅村ニ認ヘキ謂ナシ然レハ大鹿三宅神社
ハ此三宅村ニ所在トメ是ナルヘシ然レハ河
曲郡ニメ其地ノ所在モ昔時千歳ノ弊草ニ拠
テ不知モ量難シト云ヘ凡此三宅村ノ地ニ名
アルヲ奪置クヘキニ非ス今閱スルニ三宅村

ヨリ良位ニ去夏八町字ヲ本ト三宅ト云此地
ヨリ後ニ今ノ三宅ニ移居セシ所ニメ千力明
神ノ社ハ其旧地ニアリ千古ノ遺址ノ存スル
ヲ知レリ故ニ前説ニ從テ此地ニ所在ト定ム
ヘシ猶鈴鹿郡國府三宅神社ノ條ニ併稱ノ其
真否ヲ知ルヘキナリ

式内加和良神社 同処ニ西ノ谷ニアリ方俗ハ
王子ト稱ス式社案内記ニ三宅社ト宛ル処ハ
イヘ凡今考ニ三宅村坤位ニアリ俗ビシヤ門
又稻荷明神ヲ祭ルト云今所定ノ三宅社ヨリ
一丁坤位ニアリ然レ凡前輩俗ニ八王子ト稱
スト云ハ解シ難シ村老元龜年中三宅駿河守

江州日吉八王子ヲ此処ニ勧請ノ鎮守トスト
云然レハ八王子ハ国挾槌尊垂跡大法王子本
地今午觀音日吉社ハ大国主神本地叙迦仏處
山縁起ニミヘタリ式内神社ハ千歳ノ前ニ定
ラル処ニ元龜年中所迄ノ日ヨリ日吉八王
子ヲ混スヘキナシ詳ニスルトキハ旧ト三宅
神社ノ地ニ合セ祭レルニヤ氏オモヘリ甚混
駁ニノ詳ニシ難シ度會延經神名帳考證云
加和良神社月讀命乎按ニ神宮ノ例高川原社
川原社皆月讀神御魂ナリ山城国樺井^ノ月神社
樺井河合語通ス丹波国小川ノ月神社亦同以
載于伊奈富下見之月讀命乎川北村度會正

身神名帳再考證云加和良神社カワラハ^{甲ノ}
古名ナレハ始テ甲ヲ作レル人武内宿禰ヲ祀
ル欽筑後国高良神社ト同社号ナリカウラハ
ノ虚音ニテ延タル辞ニメカワラナリ甲ヲカ
ワラト云夏崇神紀及古事記應神ノ段ニミヘ
タリ社地未考今詳ニスルニ延經考證ニ加
和良神社ノ社号ニ拠テ河原ニ同ク二宮ノ高
河原神社河原社共ニ月讀命ノ御魂ヲ祀ルナ
ルヘシ山城州樺井即月讀神社ニノ樺井河合
ト同シ猶丹波小川月讀命所祀ナルニ此神社
延喜式内伊奈富神社天照大神ト大国道命ノ
因ニ拠テ起レルニ拠リ其大神ノ茅月讀命ヲ

祀カ故ニ式文ニ菴藝郡第ニ次ニ所置ナリ河
北村ニ在トス愚考ニ加和良ノ名義ハ本郡三
宅村ハ王子ヲ此神社ニ充ツル片ハ即鈴鹿郡
久我ヨリ本郡栴原及国府河原ノ下流ニ所在
ニメ其地水厓ニ通シ故ニ河原ノ名ニ合フヘ
シ猶高河原栴井小川神社ノ例ニ効ヒテ祭神
月讀命ト云ハ其徴アリト云ヘ凡的當ニ非ス
然片姑ク前證ニ從フヘシ其社域ノ所在ヲ論
スルニ前說紛擾トノ一定ニ難シ考證ハ栴井
河合ノ語通ニ拠リ本郡河北村ニ所在トス竟
熙近神名帳考正ニ社地未考ト云式社案内記
ハ三宅村良位八町号千力大明神ト云勢陽雜

記拾遺千力明神ハ本郡長法寺村ニアリ祭神
天手カ雄命即加和良神社ナリト云勢陽雜記
三宅村千力明神ハ三宅神社トス即天手カ雄
命ヲ祀ルト云式社案内記ハ三宅村ハ王子ヲ
三宅神社ニ充各互ニ記リテ其真ヲ得ス憶ヲ
ニ三宅村ハ本郡ニ所隸ニメ式文ニ合セリ故
ニ大鹿三宅神社加波良神社ハ此ニ充ヘシ三
宅神社ハ式文鈴鹿郡ニ屬セリ故ニ国府村ノ
條ニ并セリ各其條ニ照鑿ノ誓ヘシ考證河北
ニ所在ト云ハ河原ノ謂ニ臆度スルニ似タ
リ其地ヲ闕スルニ真ヲ得難シ再考證云加和
良ハ甲ノ旧名ニメ加和良高良相通スルニ拠

リテ筑後国高良神社ト同ク祭神ハ武内宿禰
命ナルヘシト疑ヘリ愚考延喜式所載ニ百五
十三座ノ神社各其地名或神名ニ拠テ名ク処
多シ甲曹或其器財ヲ造リ始ト云徳ヲ表メ社
号ニ名クルハ其徴ヲ得難シ亦臆断ニノ鑿ス
ルニ過タリ前證ヲ排スルト云ヘ氏詳ナルヲ
得ス非トスヘシ猶社地未得考ト云ニ何ノ其
地名ヲ神名ヲ計正スルニ至ヘキ荒唐ノ言ナ
リ或ハ河原ハ加波良ノ訓ニノ和ハ非トスト
云ヘシ然レトモ波和通音ナリ別ニ論ナシ其
社域ハ三宅村方俗称スルハ王子ノ地ニシテ
祭神八月読命御魂ニ的當シカクシ故ニ姑ク

闕如メ後稽ヲ俟メノ也

菴藝郡司旧墟

同処ニアリ勢陽雜記云洛陽嵯

峨天竜寺開山夢想国師此処ニ誕生国師屋敷
ト云テ里ヨリ一十許東ニアリ童幼ノ片居シ
玉ヒシ処トテ里ノ東ノ山ヲ御曹子山ト号ス
松四五株アリ又夢想櫻ト号メ櫻一本アリケ
レ氏近来朽失又赤治ノ東福寺ノ韓長老ニ當
村ノ人ナリ洛西灵龜山天竜禪寺傳云開山夢
想国師諱ハ智暉又疎石ト号ス一ニ木訥叟ト
名ケリ勢州人也姓ハ源氏宇多天皇九世ノ孫
母ハ觀音菩薩ニ祈誓メ金色ノ光明西方ヨリ
来メ飲ト夢テ姪ム十三月ニノ龜山院御宇文

永十三年誕生ス四歳ニ母ヲ喪ヒ九歳ニメ
薙髮十歳ニメ法華經ヲ一七日誦メ母恩ヲ報
シ自ラ七母ノ屍九変相ヲ画テ獨座觀想シ十
八歳ニメ慈觀律師ニ具足戒ヲ受三年顯密ノ
法ヲ修シ習トイヘキ大道ノ發覽ニ不足トテ
道場ヲ建シ百日聖惠求シニ期満ノ日座中恍
然トメ夢ノコトシ一僧來テ夢窓ヲ引テ一禪
宇ニ到ル名テ踈石ト云又一淨舎ニ到ル名テ
石頭ト号ス空中ニ一人貴老アリ夢窓ヲ請シ
左手ニ所携ノ一軸ヲ示テ汝ヨク奉持セヨト
教エ夢寤テ後夢窓繙開ミルニ初祖達摩大士
ノ半身ノ画像ナリコトニ於テ志ヲ定メ禪觀

ニ帰ス名ヲ踈石ト改メ字ヲ夢窓ト号ス崇光
院ノ御宇觀應二年九月三十日七十七歳ニメ
寂ス後醍醐天皇勅謚メ夢窓國師ト称ス今詮
スルニ銚鹿郡國府ノ國司ノ衛ニ隣リテ近キ
別府或ハ屯倉ノ地ナレハ郡司ノ所居モ此處
ナリ故ニ後世謬傳メ夢窓國師ハ勢州ノ産ト
謂ヘキヨリ國司國師ノ音韻同キラ以國師ヤ
シキト称シ又夢窓櫻御曹子山等ノ附會ノ説
ニ方俗ノ口碑ニ遺レルヲ以テ傳聞ノ俚語ヲ
雜記ニ載タルナリ猶龜山崇光天皇ノ朝ヨリ
以前ノ國衛ノ別府ナレハ旧ク云傳ヘタルハ
必セリ又後醍醐帝ノ建武年中ニ諸國司ノ浴

草アリテ再興ノ政ニ行ハレハ其時世ハ一志
郡多氣ノ北島頭能郷ニ潤色スレハ此処ニ非
レ氏保元平治ノ擾亂ヨリ後武家帰一ノ政ナ
キ前ハ國司及齋宮寮頭ヲ兼任セシモアリ然
ハ其居ハ時世ニ隨テ更リ了レ氏天智帝ヨリ
後ハ鈴鹿國府及此地ニ所居ハ別ニ異論ナシ
故ニ後世澆季ノ政行レテ其地ハ廢ス氏今ニ
至リ其名ハ著キ処ナリ然ルニ浮圖氏ノ隱蔽
ニ及テ如斯事蹟モ往々遺失スルヲ多シ千歳
ノ後鳥有トナルヘシヲ歎セリ好古ノ微志庶
幾スルヲ勿シ雜記ニ從テ拾遺徵古録及俚諺
等未發明セスノ夢窓回師ノ產生ノ地トス猶

雜記夢想ニ作ルハ傳寫ノ謬ナルヘシ因云東
福寺韓長老ハ慶長九年京洛大仏殿造立ノト
キ鐘ノ銘ヲ録セル人ナリ世傳ニ悉識ル処ナ
リ生産ノ地ハ此処未其徵ヲ得ス
長善寺 同処ニアリ領主ヨリ寺地免除ノトコ

口ナリ

勢陽五鈴遺響菴藝郡卷之二

德居 三宅ノ東ニアリ正税八百四十石紀州白

子領ナリ古屋草紙云德居新德居名増井入道

領スト云

妙福寺 同処ニアリ長善寺ニ同ク領主ヨリ寺

地免除ナリ

真照寺 同処ニアリ同ク領主ヨリ寺地免除ナ

リ

長法廢寺 德居ノ北ニアリ古昔長法寺アリ今

廢七セリ故ニ名トス正税三百四十二石紀州

白子領ナリ

長法寺城址 同処ニアリ 文治年中長法寺五郎

居セリ

御園 長法寺ノ東ニアリ 俗傳云敏達天皇ノ朝

コノ処ヨリ草花ヲ貢獻シタルコヘ御園ト名

ヅク今替ルニ一説ニ神鳳抄内宮吉清御厨三

石六九十二月トノスルトコロニシテ神戸ノ

封地ナリユヘニカクノ如ク名クナルハシ又

一本清生ニ充ル同名ニ似テ飯野御麻生園ヲ

ルニ同ク神戸ノ地ニメ御園ト名クナリ正税

銀千六百八十七石紀州白子領ナリ

御園若跡 同処ニアリ 伊勢平氏黨御園三郎住

セリ又旧ヨリ此邑ニ講堂ト方俗称セル処アリ

大リ鈴鹿郡国衛及本郡三宅等ニ通キ地ナレハ

古昔學堂ノ遺趾ナルハシ其徵未詳又虎藏生

ノ庵室趾ト云処モアリ今替ルニ玄虎禪師ノ

此処ニ居セルハ其徵ハ未得トイハレ同郡窪

田ノ安養寺ヲ再興メ其後多氣郡上野ニ迂リ

又安養寺ヲ建度會郡宮古村廣泰寺ニ寂ス上

件ノ窪田ニ隣リ近處ナレハ幽居ノ地モナキ

ニ非ス然レモ其徵ヲ得ス詳ニ佛通禪師ノ傳

ハ安養寺及廣泰寺ノ條ニ詳ニセリ

式外八幡祠 同処ニアリ 領主ヨリ神田三斗五

升免除ナリ

稻生 御園ノ東ニアリ 山林ニ傍テ田野ノ中ニ

民居ニ正税十九百七十三石紀州白子領十リ
属邑小字多シ野所新田本邑ノ北ニアリ雜記
ニ不載出屋敷雜記ニ不載塩屋ノ巽位ニ在
成光新田西村稻生出作稻生新田等雜記不載
市場稻生ノ南ニアリ神田木本邑ノ坤位ニ了
リ雜記不載明曆圖及元録圖ニ録セリ明曆中
ヨリ後ニ所置ナルヘシ稻生ノ名義ハ伊奈富
神社ノ名ニ拠テ五穀ノ靈神ト稱ノ設タル後
世人号ナリ神鳳抄云西村御園一石五斗六九
十二月玉野御園一生野ニ作ル並ニ徵古録ニ
云稻生ノ内ニアリト云

式内伊奈富神社 同处ニアリ本邑ヨリ乾位松

林ノ崗ニ坐ス方俗大宮殿ト稱ス通ノ稻生大
明神ト云稻生神社社記畧云大日本国勢州安
藝郡稻生大明神者嚴東国因三拔之神樹降秋
津洲朝之雲穀以来五穀種子ノ元祖也故如何
者日本紀神代卷曰伊弉諾尊勅任三子曰天照
大神者可以御高天ノ原也月夜見尊者可以配
日而知天事也素盞烏尊者可以御滄海之原也
既而天照大神在於天上曰聞葦原中国有保食
神宜尔月夜見尊就候之月夜見尊受勅而降色
到于保食神許保食神回首嚮国自口出飯又嚮
海則饜狭亦自口出又嚮山則毛鹿毛柔亦自口
出夫品々物悉備貯之百机而饗之是時月夜見

尊忿然作色曰穢哉鄙哉寧可以口吐之物敢養
我乎廼拔劔擊殺然後復命具言其言時天照大
神怒甚之曰汝是惡神也不須相見及與月夜見
尊一日一夜隔離而住是後天照大神復遺天熊
人牲看之是時保食神實已死矣唯有其神之頂
化為牛馬鬣上生粟眉上生蚕眼中生稗腹中生
稻陰生麥乃大小豆天熊人悉取持去而奉進之
于時天照大神喜之曰是物者則顯見蒼生可食
而治之也乃以粟稗麥豆為陸田種子以稻為水
田種子又因定天邑君即以其稻種始殖于天狹
田乃長田其秋垂穎八握莫；然其快也又口裏
含蜜使得抽絲自此始有養蚕之道焉保食神此

云宇氣母知能加微顯見蒼生此云宇都志枳阿
烏比等久佐延喜式神名帳云伊勢国安藝郡稻
生神社三座云云又風土記云大宮奈江大国道
命西宮地主姬神三大神宮雷電神是也昔天若
國若之時天照大神并大国道神計曰吾等天降
瑞德國可王人民令豐是時保食神腹中生穗天
熊人取持去而奉進之于時天照大神喜曰是物
者則顯見蒼生可食而治之也云云然人皇十一
代崇神天皇御宇任靈夢誥定宮处方角即營宮
彼處就而居号之稻生大明神或曰伊奈富神名
稻生社皆使以勅号也又同御間城入彦五十瓊
殖天皇新蒙靈夢及再三之秋勅當國刺史莅境

當時瑞光照之宛似珠玉之輝異香芬々兮荐送
沈檀之白怪而以求請果得寸粒錄而以捧之速
達三漏是則知神靈之變化處信弥不淺綸綽新
降終梵宇成風之功整勅會之儀刷社頭迂宮之
義式加之人皇四十五代聖武皇帝之御宇天平
年中託宣自称福万大菩薩則是彌陀大悲称名
伊王留菜ノ秘号也刺又人皇五十三代淳和天
皇之御宇天長年中山王院大師參籠之日自刻
神跡秘尊奉密納之則其堂ノ名菩薩堂其寺号
慈悲院所謂今之神宮寺是也誠貴哉難有哉從
神代之昔至人皇之今迤東作青苗遍於葦原靈
威遠及西收黃穗稻垣滿寺中国知是皇道鎮護

尊神也故君臣奉幣之祖无絶更佛法護持之上
首尊卑貴賤壽命相續靈神也最可慎敬者此尊
神也 度會延經神名帳考證云伊奈神社那江
大国道命地主姬神雷電合三座為一座按 那
江稻穗乎道与盈同訓以与横道下神社同郡見
之○古事記国忌富神欽地主姬神埴安姬也雷
神火雷神命也稻生神社式云按風土記云大宮
八那江大国道命西宮地主姬神三大神雷電神
是也管天若久国若久時天照大神并大国道命
共計云曰吾等天降瑞穗国可王人民令豊是時
保食神臆中生稻天熊人取持去而奉進之干時
天照大神喜之日是物顯見蒼生可食而活之也

遂使人皇第十代崇神天皇御宇即菅宮彼处使
就而居号之稻生大明神或曰伊奈富神マ夕ノ
名稻穗社朝野群載云喜美二年十二月撰政大
臣家ノ政所下文稻生社四至限西国府東板川
限東白子濱限南井手橋南畔限北菴藝郡坐稻
生社祭日也今在塩屋稻生村乾松山 度會正
身神名帳再考證云伊奈富神社今云稻生村乾
松山ニアリ雜事記曰三月三日菴藝郡坐稻生社
祭日也ト所祀保食神也考證ニ引稻生神社式
ニ出タル風土記ノ説不可ナリ三社トノハ式
文ニ不合○今詳ニスルニ延經考證ニ伊奈富
神社ノ名ニ拠テ那江大国道命地主姐神雷電

神ニ座ヲ併メ延喜式文ニ不合ス如ク一座ト
ス那江ハ稻生ノ義ナルヘシ道ハ盈ト同シ横
道下神社ニ古事記云鳥鳴海神額田毘道男伊
許知迹神ヲ娶リテ国忌富神ヲ生ス其国忌富
神ヲ此ニ祀ル即伊奈富神社ト菴藝郡ニ同ク
坐スニ拠テ大国道命ハ国忌富神ト同ク神ト
ルヘシ埴安姬命火雷命ト併セ三座トス稻生
社式ニ正宮ハ大国道命西ノ宮ハ埴安姬命三
大神ト称スハ火雷命ヲ祀レリ稻生社式ハ上
文ノ如シニ愚考ニ日本書記一書ヲ引證メ伊
奈富社ノ社式ヲ上ニ載ル如キハ既ニ保食神
ニメ即稻穀ノ靈神ナリ旧伊奈富今稻生ト称

スルニ此因ナリ然ルニ社式ニ風土記ヲ引テ
大宮那江大国道西宮地主姫神三大神ハ雷電
神ト云地主ハ塩安神雷電ハ火雷命ハ然リ那
江大国道ハ其名ヲツマヒラカニセスカ
ユハニ考證横道下神社ノ所祭国忌富命ヲ同
郡ニ坐ス故ニ拠テ疑クハ同神ナルヘシト云
風土記ハ世本和銅延長中所撰ト云ニ所見十
ニ猶蠹簡遺編ニノ世ニ襲藏ス全本アルヘキ
ニ難知ト云ヘ氏前論ニ謂フ出雲風土記ノ外
ハ徴トスルニ不足大国道命ト云昏記ノ文此
ニ由十三其國史ニ差タルモ拠十三ト謂ヘシ
崇神天皇朝ノ創立及朝野群載神宮雜事記等

ノ古典ニ拠テハ昔時ノ名神ト称スヘキナリ
故ニ延喜式菴藝郡ノ第一ニ載ス然レ氏神位
諧等ハ國史ニ所傳十三方俗正一位稻生大明
神ト称スルハ妄ナリ後世諸社ニ此例アリト
云ヘ氏官爵ニ非ス私称ト謂ヘシ塩屋稻生村
乾云云塩屋ハ屬邑ニ本邑ノ巽ノ位ニ居ス
此乾位ニ社域アリ正身再考證云所祀保食神
ナリ考證所引稻生社式風土記ノ説ハ不佳三
社ニ填ルハ式文ニ合セスト愚考然リ是トス
ヘシ神名帳菴藝郡十三座云云通計十三區ア
リ三座ニ填ルハ古ニ適ハス又私言也勢陽雜
記及拾遺保持神大国道命地主姫神大山祇命

雷電神天鈿女命六座トス勢陽俚諺本社別雷
命三大神保食神天鈿女命大山祇命式社案内
記各雷同ノ祭神三座ス非トスヘシ神風徴古
録大山祇命別雷命天鈿女命三座トス古屋草
紙云本宮保食神西宮ハ奈江大国道命豊宇賀
女命三大神ハ大山祇命別雷命天鈿女命トス
各非十リ 古屋草紙保食神ヲ祀ル処トス是
十リ再考證此ニ同轍ニ保食神ヲ祀ルニ從
テ今一座トスヘシ○勢陽雜記云日城米穀ノ
最初一寸八分ノ初當社ハ天降り菩薩堂ニ奉
納ス云云案スルニ大国道命ヲ祭ルナルヘシ
本社ハ良ニ坐ス三大神宮ハ雷電神十リ西ノ

宮ハ地主東ハ八幡其次ノ菩薩ハ弥陀十リ処
々致景物フリテ池中ニ七嶋アリ弘法大師ノ
汲玉ヒシ阿闍井アリ舟崎又般若崎十ト云
処アリ往昔般若經三部ヲ何レノ時ニヤ此地
ニ埋シ故ニ地名トス又血池ト云アリ西ノ岡
ノ下ニアリ天下兵乱ノ機ヲ顯シ侍ル夏アラ
ニ前ニ此池水變メ血トナル東ノ岡ト云ハ西
ノ岡ヨリ半里許ノ間アリ地景勝劣アリトモ
オホヘス獅子頭四ツアリ弘法行基春日安阿
弥一頭ツ、作レリ丑未辰戌ノ四年ニ從テ樂
器ヲ拍調シ獅子舞ノ勢州中ヲ順回ス此外中
戸山本下箕田大古曾郡山等ニモアリ就中當

社ノ獅子ヲ一位トシ其棟梁タル古例アリ然
メ後諸方ヲ回テ各當社ニ集リ三月三日式年
ノ月日ニテ舞納ムト云恒例アリ今詮スル
ニ社記ニ所載稻生名ニ拠テ五穀ノ靈神トス
ノ附會ナリ又故ニ方俗一寸八分ノ米粒ヲ菩
薩堂ニ納ムモコ、ニ拠シリ上古ノ物トノ一
寸八分或ハ一寸六分ノ大ナル粒米ヲ藏ス
夏躋往々アリ俗譚ナリ丹波州栗田郡餘野村
ニ十歳ヲ経ルト云民家アリ棟上ニ米粒ヲ蓋
ス其大廿一寸六分ト方俗ノ説ナリ未其真ヲ
不見トイヘ尺大略其米ヲ食スヘキ人民ヲ推
テ其長大ヲ量ルヘシ上古大六佛等ノ變化ア
リトイヘ尺所謂神代ノ壽ヲ論シ奉ルカ如ク
其餘菩薩堂及阿闍井般若崎ノ名ハ聖武帝朝
ノ後浮圖氏ノ習合多シ又獅子頭ニ弘法大師
行基僧正等ノ彫ス処ナリト云モ前ノ菩薩堂
ニ類ノ高僧ノ佛軀ヲ彫スルニ例ノ浮圖ノ作
トスル処ナルヘシ然レトモ其弊流ノ盛ナリ
シ世ハ佛氏ニ混ノ祭祀及造立等ニ拘リタル
例多シ度會郡大神宮域内ノ菑社ニ御頭ト称
メ獅子頭ノ類アリ其彫エノ名ヲ署シタルニ
永祿二年己未五月岩院作ト鑄セリ然レハ本
祠ノ所載氏ノ所作ナルヘシ凡テ諸社及寺刹
ノ縁起ト謂フハ鹵菴ノ説多メ又浮圖ノ所編

ノ者ハ奇怪多シ徴トスヘキ少シトイハ其
起源ヲ索ニカ為ニ姑クコ、ニ録ス猶神威ハ
崇信ニ佛眞尊敬ス後世ニ至リ神佛ヲ混セル
ハ諸社皆然リ前ニ所載ノ社記ハ當今ノ社司
等カ取舍ノ其真十ヲ廿ルト謂ヘシ明曆中雜
記編著ノ時ハ此所傳アルカ故ニコ、ニ贅ス
ルナリ後季排斥ノ其善ヲ舉其非ヲ蔽フ片ハ
編著ノ謬ニ帰スベシ故ニ雜記ニ從テ衆下ノ
録者ノ嘲ヲ解スモノナリ古屋双紙云神宮寺
弘仁三年空海上人加持高倉院兼安年中獅子
頭ヲ置ト云云今註スルニ兼安年中ノ習俗ニ
獅子舞田樂等ノ事ヲ俳優スルニ於テ設置

十ルヘシ 神宮雜事記云治曆三年十二月左
衛門尉平季衡科上被健神祇大佑大中臣惟經
卜部權大副兼懷木也事癸者今年三月三日菴
藝郡ニ坐稻生神社ノ祭日也而檢非違使河内
常重卜駿河前司平惟盛朝臣從者又件ノ左衛
門ノ從者共ニ口名ノ間常重并男子從者惣三
人被討損了其中從者男ハ矢疵死去了常重父
子僅存命件ノ下手人等ハ三重郡宇八衣比原
御厨住人等也仍祭主永輔年來蒙勅勘此九ヶ
年ノ間雖不下向依祭主下文令追補之間御厨
内ノ住人二百余家内ノ外共ニ損亡也依主人
名依宣旨科被勤仕ス了又被殺害之神民以替

人被令并替己丁是則河曲神戸預リ大麻武則
被殺害之時故越前々司正度朝臣依宣上令并
替也仍任先例且任式條所并替了

延命寺 同處ニアリ領主ヨリ寺地免除ナリ

福樂寺 同處ニアリ領主ヨリ寺地免除ナリ

福田寺 同處ニアリ領主ヨリ寺地免除ナリ

南養寺 同處ニアリ領主ヨリ寺地免除ナリ

稻生城址 同處ニアリ稻生雅樂頭居セリ神戸

家ノ子力ニノ天正年中織田信孝ニ属セリ北

畠物語云稻生ハ守屋大臣ノ後胤和田ノ九郎

力末孫幕ノ紋丸ノウチニ鷹ノ羽三本扇ノ丸

ナリ

徳田 稻生ノ南ニアリ正税千百十九石紀州白

子領ナリ属邑横地本邑ノ西ニアリ畑村本邑

ノ坤位ニアリ中嶋本邑ノ川南ニアリ一名徳

田出作ト云今中島ト称ス徳田ノ属邑ナリ神

鳳抄云二宮得田御厨五十丁五石今徳田ニ作

ル

式内横道下神社 属邑横地ニアリ方俗八王子

ト称ス横地ハ今ノ名ニメ旧名横道ナリ郡山

村酒井社ヨリ北ハ下稻生村伊奈富社ヨリ

堤ヲ歷テ田野横地村ニ坐ス祭神伊許知通命

社域南北ニ二社ナリ北ハ祭神牛頭天王ニメ

彦土神也南ハ俗八王子祠ト云是本社ナリ

度會延經神名帳考證云横地下神社伊許知通
神古事記云鳥嶋海神娶額田毘道男伊許知迹
神生国忍富神按=横道与伊許知語通言勤夏
也尔与美通ス女也維織八事也下与織同訓横
地村ハ郡山村之北也度會正身神名帳再考證
云横地下神社社地横地村=アリ下^ヲハ假名=
ノ横地織ト云=ヤ服部ハ機織ナシハ織トハ
ニ云テ畧シタルナリ前ノ服部神社ニ對シテ
横地村ニ在ノ服部ト云ナリ祀神前ニ云漢織
ト共ニ来リシ吳織ナルヘシ今詳ニスルニ
延經考證横道下神社ノ名義ハ横地今郡山ノ
北ニ村邑アリ古夏記鳥嶋海神伊許知通神ヲ

要テ同忍富神ヲ生ムト云引徵メ横地ハ伊許
知ノ通言維織ノ事ヲ務ムルノ謂ニメ尔ハ女
ト通ス即女躰ニノ下神社ノ下ハ上下ノ謂ニ
非ス下ハ織ト同シ各發明ナリ愚考前説ニ
從フヘシ然レ氏横地ハ伊許知之轉ナルハ未
知ラス正正身再考證ニ服部ハ機織ノ畧語ニ
ノ前ノ條ニ服部神社ノ郡山村ニ所在ニ相對
メ横道ニ所在ノ服部ヲ下ト畧セシナリ祭神
ハ服部神社ニ漢織ヲ祀ル片ハ漢織ト日本ニ
歸化セシ吳織ヲ此ニ祀ルナルヘシト云愚考
ニ各前考證ニ從ヘリ服織神社ニ對メ此ニ吳
織ヲ所祀ト云ハ臆断ナリ前々ヲ排ス力故ニ

設ル言ニノ真ヲ得ス吳織ハ此地及白子等服
部郷ナルニ拠テ久留真神社ニ吳織ヲ祭ルト
ス前輩ノ云処ニ拠レハ本郡ニ処々同神ヲ祀
ルヘキ謂ナシ前考證ニ倂テ伊許知途命ヲ此
ニ奉祀スルト定ヘシ古屋草命及式社案内記
相同ニ猶本郡白子久留真神社ノ号ニ併替ス
ヘシ

木録 稻生ノ巽位ニアリ正税三百四十六石勢
陽雜記所載公領ナリ故ニ小笠原主膳領トス
明曆後ノ知ナリ今紀州白子領ナリ三宅村ニ
屬ス然レハ古牒ニ從テコ、ニ録ス
得田ニ木録ノ南ニアリ正税二百六十七石紀州

領津領入會ナリ

白子 稻生ノ東海瀬ニアリ旧名白兒ト記ス又
栗真庄ト称ス正税三千四百十六石紀州領小
笠原主膳領入會ナリ寺家村屬邑ナリ江嶋ハ
河曲郡ニ屬セリ白子ノ邑ノ東ニ續テ民居ス
故ニ本郡河曲ノ郡界村落ノ中カナナイ川ト
云小流アリ是郡界ナリ江嶋ハ旧ト明曆中ハ
公領ニメ今小笠原領ナリ神鳳抄云二宮若栗
御園徴古録云一本栗真ニ作ル又云江嶋御厨
又河曲郡河南河北御厨本邑ノ内江嶋ニアリ
トス白子ニ紀州領主ノ邸舎アリ代官物頭目
附等在番ナリ紀州白子領六万石ヲ掌宰ス都

テ平原海瀬ニ民居ス四方海船通行シ漁獵多
シ漁人江嶋ニ居ス白子ニ豪富ノ高アリ明曆
中ノ改メ民戸一千宇産物ハ索餅紺屋ニ用ユ
ル漆形紙ヲ諸州鬻ク里ノ中間ニ官禁ノ制札
場アリコレヨリ南ヲ栗間ト稱シ北ヲ江嶋ト
云栗間ハ旧キ名ナリ又車ノ庄トモ轉セリ
大平記第五大塔宮都落ノ條ニ云乃該の辻に
札を寄くまゝあり大塔宮を討ちたるに
のめは非穢凡下といも以伊勢の車代を忍
考み宛り乃々一記より云ふ所あり
白子 本邑ハ幡宮高一石領主ヨリ免許ト云云
平家物語第四高倉宮御最斯條ニ云爰ニ伊賀

伊勢両国ノ官兵等馬後押破レテ六百餘騎コ
ノ流レタル萌黄威赤威色々ノ鎧ノ浮マ沈ヌ
ユラレケルハ神南備山ノ紅葉ハノ峰ノ嵐ニ
サソハレテ立田ノ川ノ秋ノ暮井堰ニカ、リ
テ流モアヘスニ異ナラス其中ニ火威ノ鎧著
タル武者三人綱代ニ流カ、リテウキ又沈ヌ
ユラレケルテ伊豆守見玉ヒカクコソ詠ニ玉
ヒケル

いせ武蔵の比叺の綱代ありしりるる

コレヲハ皆伊勢ノ国ノ住人ナリ黒田ノ後平
四郎ヒノ、十郎乙部ノ弥七ト云モノナリ中
ニモ日野十郎ハ古兵ニテ有ケレハ弓ノ筈岩

ノハサマニ子ヲ立テ檢上リ二人ノ者ニ引
上ケテ夕スケタルソト聞ヘシ今案スルニ
官兵ハ平氏ナリ伊豆守ハ頼政嫡男伸細黒田
ハ本郡ニアリ日野ハ三重郡ニアリ乙部ハ安
濃郡ニアリ又源平盛衰記宇治川合戦條ニ
云平家方ヨリ伊勢国住人古市ノ白兒黨トテ
サ、ノキテ押寄タリ宮ノ御方ヨリ渡邊ノマ
ノ共省授與列競唱清濯ト名ノテ散々ニ射ル
白兒黨ニ先陣ニ進ニ戦ケル中ニ三人共ニ赤
威鎧赤印ノ付タル武者馬ヲ射サセテ川中へ
彈入レラレテ浮ヌ沈ヌ流テ宇治ノ細代ニ寄
ル秋ノ紅葉ノ立田川ノ浪ニ浮クニ異ナラス

細代ニカ、リテ弓答ヲ岩ノハサマニユリ立
テ希有ニシテコソ上リケレ源氏コレヲ見テ
白兒黨白兒黨ニ於テ此程キク字法乃細代細代ニヨリ
平家物語ハ伊勢武者トス其異ヲ奉ク東鑑云
文治三年四月廿九日丙辰條ニ三日公卿勅使
馭家雜事伊勢国地頭御家人等多以對捍之間
召在廳等注進狀被下之仍今日ニ品覽彼目錄
仰不法之輩可被誠向後ノ懈緩之由及嚴密御
沙汰云云件目錄云文治三年三月廿日公卿勅
使伊勢国馭家雜事勤否散狀事合一勤仕在云
云一不勤仕在栗真在因幡前司廣元今詮スル
ニ旧ト本州ハ伊勢平氏ト稱ノ平正盛ヨリ累

代所居地ナリ故ニ其屬士皆本州ニ住セリ治
兼壽永ノ擾乱ニ官兵ニ授ルハ此由縁ナリ
軍藉ニ粗載タリ猶白兒黨ト稱メ上総介平忠
清惣裁メ此庄ノ被官ナリ古市ト稱スルハ古
昔ヨリ市鄺ヲ所置ナルヘシ保元物語ニ云伊
勢国私市ノ伊藤五ト云名署アリ旧私市ニテ
古ク傳ヘタル故ニ古市ト稱スナリ私ノ訓ハ
日本敏達記曰祀部私部キヤイハ又和名抄ニ丹波国河
鹿郡私部又姓氏録云大私部開化天皇御子彦
坐命之後也私ハワタクシノ訓ニノ皇后ヲキ
サイノミヤト訓ス天皇ハ公ニメ皇后ハ私ナ
ルノ意ナリ故ニ旧名ハ私市ニメ公ニ非ス私

ニ市鄺ヲ所置ナルヘシ北畠材親多氣窓螢云
ムカシ故市乃伊藤トイフ武士アリケリ然ル
ニ古市ヲコノ処ニ非ストノ近世伊勢名所因
會ニ度會郡宇治郷古市平家當国ヲ領セシ片
代官ヲ居置シ処ナリト云ハ土俗ノ僻説ヲ傳
ヘテ載タル謬傳ナリ上件ノ古市ハ本邑ニ夏
蹟ニ必セリ鴨長明海道記

立石所移り事此編造詠存あり中の縁そのもの記

今詳ニスルニ世本長明海道記ニ此詠ナシ長
明道ノ記ト稱スルナルヘシ又前ニ辨ス如ク
源光行紀行ニノ鴨長明ニ非ス又雜記ニ所載
古哥ニ

月影子白子此流の白鳥を波もひく川をんく後ろのゆ

今詳ニスルニ長久元年哥合躬恒ノ哥ナリ古
屋双紙ニ夫木集ニ載スハ非ナリ猶躬恒ノ哥
八月影にちらのノ濱ナリ白子ニハ非ス又古
屋草紙及拾遺伊勢名所圖會等ニ此処ニ引拠
セリ名雜記ノ糟粕ナリ然ルニ志陽畧誌ニ志
摩国ノ有トス其徴ナシ後号多氣郡濱田ノ海
瀨ナリ其考證ハ詳ニ其條ニ録セリ

式内久留真神社 同処ノ南栗間ニアリ方俗勝

手明神ト称ノ祭神吳織寺家村觀音寺ノ境内

比佐豆知社ヨリ北ヘ三丁 度會延經神名帳

考證云久留真神社吳織淡路国伊勢久留麻神

社甘露寺親長記云伊勢国栗真ノ社今白子村

ノ南云栗間此地有称福德天皇社福德與服織

音近シ 度會正身神名帳再考證云久留真神

社々号吳津女ニテ此^口ノ切^口る真ハ女ナリ津

ハ地名ノ下ニ副ヘ呼ノ例ニミヘタリ蓋シ上

ノニ社ノ漢織吳織ニ連レル伊勢ノ衣縫ノ先

ナル弟姫ヲ祀ルナリ其兄姫ハ大三輪ニ奉シ

リ淡路国ニイセ久留真神社アリ伊勢ノ衣縫

ノ彼国ヘモ祀リシナリ伊勢ノ二字ヲ以テ称

スルニテ久留真ハ衣縫ナルヲ知レリ社地

白子村ノ南栗間村ニアリ今詳ニスルニ延

經考證久留真社ノ名義ニ拠テ白子ヲ南栗間

＝福德天皇ト称スルアリ前＝云福德ハ服織
ノ音韻近シ故＝吳織ヲ奉祀スル処ナリ延喜
式淡路国伊勢久留真神社アリ親長記＝伊勢
栗真庄ト云＝拠テ久留真栗間ハ後世ノ轉十
ルヲ知ルト云ナリ愚考＝久留真ハ此地ノ旧
名ナリ原ハ吳織神ヲ祭ル＝拠テ吳津女ノ轉
約ナルカ故＝其久留真ノ名起後＝栗間或車
＝轉セリ今白子北ノ地ヲ江島ト称シ南地ヲ
栗間ト謂ヘリ其栗間＝奉祀スル処ノ神社＝
ノ福德天皇ノ俗称ハ服織ノ音＝テ称スル処
ト云各是トスヘシ正身再考證＝久留真ノ神
社名ハ吳津女ノ約＝メ真ハ女ナリ津ハ助辞

上ノ服織横地下神社ノ二處＝伊勢衣縫ノ祖
神漢織吳織ヲ祀ル＝漢織ハ大三輪神社＝奉
シ其弟姫吳織ヲ此＝奉祀スルナリ又淡路州
＝坐ス伊勢久留真神社ハ本州ヨリ衣縫ノ祖
ヲ彼州＝モ祀リタル故＝伊勢ノ名ヲ冒シ夕
ルナリ社地白子村ノ南栗間村＝在リト云愚
考＝前考證＝劬テ別異ナシ伊勢久留真神ヲ
淡路＝迂祀レリト云是ナリ○栗間ハ白子ノ
別邑＝非ス其邑ノ南ノ地ヲ称セリ今此＝方
俗勝手明神ト称ス即久留真神社ナリ考證＝
福德天皇ト云モノハ今不知式外大宝天皇社
ト俗称スアリ古屋草帑素盞烏尊ヲ祀ルナル

へシト云是今古ノ差十ルへシ神風徴古録祭
神織姫伊勢名所圖會ニ吳服部織姫トス此ニ
從へリ然レトモ漢織吳織ノ別ヲ詳ニセズ式
社案内記勢陽俚諺漢織吳織ハ服織神社ニ祀
リ吳織ハ此社ニ奉祀スル処ナリ今世此邑
ニ木綿布ヲ多ク織出ス白子モノト俗稱ス
是奈神吳織ノ由縁十ルへシト思へリ又式外
春日明神又大宝天王ノ祠等同処ニアリ
終南山悟真寺 同処中町ニアリ開山良賢上人
鐘名杏菴正意記ス領主ヨリ寺地免除ナリ
寺記ニ開山良賢初在中山而甚徴也良賢三代
法孫秋蓮社淨譽上人移寺於此処地方百間植

松竹堀溝而遠俗塵然堂舎初而大也淨譽六代
之後雲譽移住武江増上寺近世久須見淨林鑄
鳥鐘杏庵正意作銘寮舎五一隨心院一善徳院
一照光庵餘皆無号今從顯靈至淨譽十六代云
云良賢ハ應仁元年寂ス

青龍寺 同処ニアリ下野弘高田專修寺ニ属ス
竜源寺 同処ニアリ領主ヨリ寺屋敷免許ナリ
普濟寺 同処属邑ノ字ハ打越ニアリ禪宗普化
禪師ノ末流ニ本州虚無僧ノ總録ナリ
伊勢名所拾遺 名寄

多言く小濱村海邊ニ有る風光ありし
白子ヨリ一里北小濱村トイヘルアリ此海辺

ナラニカ俚諺ニ引拠ノ小濱村未詳トス或ハ
志州荅志郡小濱村ノ條ニ引テ徵トス又紀由
章名所拾遺追考ニハ齊宮歌合ニモ此ウタヲ
加ヘリトソ今詳ニスルニ白子ノ北ニ小濱ト
称ス地ナシ齊宮歌合ノ所載ヲ原トスヘシ名
寄ハ後世ニ加フ処ナルヘシ多氣郡ニ所在ノ
地ナルヘシ其郡ニ考索ノ録セリ
式内比佐豆知神社 属邑寺家ニアリ觀音寺境
内ニ坐萱萱ノ祠ナリ方俗ニ富士推現或ハ木
立明神ト称ス大别府尾前社ヨリ北ヘ二十丁
ニアリ 度會延經神名帳考證云比佐豆知神
社古事記天菩比命之子建比佐鳥命平野村産

社此乎姓氏録云奄我天穗日命之後也我子藝
音通度會正身神名帳再考證云比佐豆知神社
此社号前ニアリ當郡ニモ亦同神ヲ祀ルナル
ヘシ 今詳ニスルニ延經考證ニ比佐豆知神
社ノ名ニ拠テ天菩毘命ノ兒建比佐鳥命ノ名
ニ應シ姓氏録奄我ノ姓ハ天穗日命ノ裔孫十
ルニ拠リ奄我ノ我ハ藝ト通音也故ニ菴藝郡
ニ穗日命ノ兒ヲ奉祀スル処ニノ平野村ノ産
土祠ナルヘシト解セリ愚考ニ比佐豆知ノ名
ヲ建比佐鳥命ニ合シ奄我ノ姓ハ天穗日命後
ナルユヘニ此本郡ニ祀リ平野ニ所在ニ定ク
ルハ名牽強ニノ其真ヲ得難シ既ニ安濃郡ニ

比佐豆知神社アリ考證ニ同神ヲ配セリ從ヒ
カクシ猶平野村ニ所在トスルハ其徵ナシ正
身再考證此ニ從テ論ナシ今式社案内記ニ安
濃郡比佐豆知神社ハ安濃津塔世村ノ愛宕權
現ヲ配シ祭神大雷命トス故ニ本郡比佐豆知
神社モ祭神同シ白子ノ南寺家村觀音寺境内
ニ坐ス方俗富士權現ト稱スヲ此神社ニ宛テ
リ若此ニ從テイセ名所因會勢陽俚諺ハ祭神
木華開耶姫命トス此ハ方俗富士權現ト稱シ
寺域ニ不斷櫻ノ名樹アリ扱テ附會ニノ論ス
ルニ不足其比佐豆知ハ比佐横通音ニノ伊加
ニ通スルニ由リ伊加豆知ノ義ニノ火雷神ヲ

祀ルト云臆斷ナリ竜照近神名帳考正社地未
考トス其富士權現ト稱スルハ後世人俗稱ニ
ノ木華開耶姫ヲ配スルハ愈俗ナリ旧名木立
明神ト俗稱セリ今閱スルニ寺門ノ傍ニ千歳
ヲ經タル古杉樹ノ朽株アリ是本郡稻生神社
ノ一鳥居ヲ建ル地ナリ故ニ其旧址ヲ遺存ス
ル処ト云然レ氏今其地モ亡テ民居トナレリ
クトハ今憶フニ稻生神社ハ此地ヨリ二十
余丁ニ暨ヘリ其鳥居ヲ建ヘキニ非ス木立ノ
名ニ應ノ此ニ上世神社ノ存スル処ニノ廢ノ
後今ノ寺内ノ觀音堂ノ左側ニ稍ク其小祠ヲ
建タルト謂ヘシ然レトモ祭ル処ノ神ヲ詳ニ

シ難シ安濃郡比佐豆知神社モ今愛宕山勸請
 ニ拠ルト称ノ領主ノ崇重ナル故ニ火雷神ヲ
 奉合シ強テ比佐豆知ヲ伊加豆知ニ訓スルモ
 誤ニメ其旧址ハ愛宕権現ニ非ス其係ニ詳ニ
 セリ此ニ拠テ此神社モ同名ナルカ故ニ同神
 ヲ奉祀スト云トモ安濃郡ノ前ニ所載ヲ注解
 シ得サレハ此社モ解シ難シ再考證ニ比佐豆
 知ハ久地ニノ国狭植尊ヲ祀ルトコロトスル
 モ稍夕相近シ然レトモ臆断ニメ真難シ孰レ
 此寺門ノ傍ニ上世ヨリ所存ニメ今境内ニ移
 シ建ルト云フヘシ其所祭神ハ未ダ詳ナル
 ヲ得ス

白子山觀音寺 同処ニアリ真言宗本尊白衣觀
 世音菩薩方俗子安觀音ト称ノ詣人多シ寺
 傳云聖武天皇勅願天平勝宝年中勅願藤原不
 比等建立伊勢国順禮札所第十六番

りき〜多岐のちき〜つみ〜にち〜浪のち

惣門ハ東向ニテ左ノ方ニ茶所アリ右ニ鐘樓
 堂 方丈 庫裡 鐘樓堂ノ傍ニアリ本堂東
 向正面ニアリ 秋葉権現祠并ニ金毘羅権現
 ノ祠本堂ノ右ニアリ次ニ富士権現 天神之
 祠 熊野権現 神明 木立明神則是比佐豆
 知神社ナリ小鳥居ヲ建本堂ノ右ニアリ辨天
 祠茶所ノ後ニアリ 不断櫻茶所ノ左本堂ノ

右ニアリ 御朱印高三十石外高四石五斗紀
州領主ヨリ国印免除ナリ 雜記所載此寺イ
ツレノトキニヤ回録ス其灰燼ノ中ヨリ櫻一
株ヲ生ス今ノ不断サクラ是ナリ其後祢徳天
皇殿聞ニ達シ南庭ニ植ラル一夜ノ中ニ枯木
トナリ又帝不測ニ思召テ観音寺へ又遷シカ
ヘシ玉ヲ御製

名所拾遺和哥集ニ云々ありヨツク

宗旅
宗長
紹巳

菊崗沿涼里人談云伊勢国白子寺家村観音寺
堂ノ前ニ一木ノ櫻アリ四時ニ花開キ盛花ノ
如クニハ非ス葉陰ニ五七輪ノ花常ニ不絶當
寺子安観音ト称ノ靈験世ニ知ル処ナリ此御
影ヲ産所ニ安置スレハ必ス安産ナラシム此
寺家村一郷ハ孕女五月帯ヲセサルヲ昔ヨリ
今ニ以テ寢セスト云云俚諺云寺堂ヨリ産帯
及櫻葉ヲ添テ授ク請得テ見ルニ胎兒男子ハ
葉ノ背ヲ見ル女子ハ葉面ヲ自ラ見ルト云
今詳ニスルニ伊豫州松山ノ城ヨリ北ニ十八
町山越村領主之香華所竜恩寺ノ地境ノ山ノ
麓ニ十六櫻ト称スルアリ毎歳正月十六日必

ス花ヲ癸ノ城府ヨリ花ヲ賣ノ群遊ス其傳説
ニ云西遊記ニ載タリ其説曰彼国ノ人ニ此櫻
ノ由来ヲ聞クニ昔山越ノ里ニ老人有ケルカ
年殊ニ老テ其ウヘ重病ニ卧シ頼ニ少クナリ
ケルニ唯此谷ノ櫻ニ先キ立テ花ヲモ見スノ
死ニテノミヲ歎キテ今一度花ヲ見テ死ハ浮
世ニ思ヒ残スヲモ非シト切ニ聞ヘケレハ其
子悲ニ歎キテ此櫻ノ本ニ行テ何トソ我父ノ
死シ玉ハサル前ニ花ヲ咲セ玉ヘト誠心ヲ盡
メ天地ニ祈リケレハ其孝心鬼神モ感シケン
一夜ノ中ニ花咲乱レ殆モ三月ノ比ノ如クナ
リケリ此祈リケル日正月十六日ナリケレハ

其後ハ今ノ世ニ至ルマテモ猶正月十六日ニ
咲ケルナリトソ其由来モ又正カリ又里人談
云伊予国和氣山越村了恩寺林ノ中ニ一樹ノ
サクラアリ毎年正月十六日ニ花開クニ秘テ
此名アリ昔當寺ノ住僧此櫻ヲ栽テ我子櫻ト
寵愛セリ老衰ニ及テ病ニ卧ス今歳此花ヲ見
ルマテハ存命スヘカラスト木ニ向ヒテ餘波
ヲ措ミケル其翌花咲乱レタリ是正月十六日
ナリ從其此日花咲トナリト云云 又本朝奇
迹談云下総国小見川内田某ノ領内ニ四季咲
ノ櫻ニ処アリ一本ハ八重一本ハ單ハナリト
ソ又薩摩州ニ崎島櫻ト名ク寒申ヨリ咲ル櫻

アリ正月ノ上旬ニハ満開ナリ人家ニ多栽テ
強テ珍トセス寄嵩ハ琉球ヨリ南ニ三百里ヲ
隔タリト云都ニ薩州ハ本邦ノ極南ノ地ニ
甚暖氣ナリ故ニ冬ニ花ヲ発スヲ得タリ
其土地ノ異ナリ又十六日櫻モ然リ前件下總
州ノ謂フ処ハ四季櫻ニ當寺内ニ所栽ト同
種ナルヘシ余親見スルニ奄藝ノ郡境海濱ノ
地ハ冬月至テ南北ニノ温暖ナリ故ニ春月ハ
更ナリ返寒ノ候トイヘ凡稍ク温和ニ促サレ
テ終ニ花ヲ発セリ所謂カヘリ花トイフカ如
シ又夏月至テ炎暑候ハ觀ルヲナシ春秋冬ノ
三時ニアリ然レ凡春時ニ及ハズ終ニ花ヲ生

スナリ蓋一奇トスルハ冬月嚴寒ノ候ニ其葉
ハ稍ク落ツトイヘトモ他邦ノ櫻ト異ニメ半
ハ其葉ヲ墜スヲナシ是一種ノモノナリ凡テ
奇異ハ神佛ニ託ノ其信ヲ發ス方便トスハ彼
門ノ常譚ナリ然レ凡草木ヲ以テ祥瑞トスル
ハ兒戲ニ似タリ猶称徳帝ノ時禁闕ニ移シ栽
サセシム事蹟日本書紀其餘國史類本ニ徴ト
スヘキナシ又御製ト称スウタハ伊勢名所拾
遺云

此等何れも川柳の類をなれども為人々々や考證を乞ふし
ト録ノ称徳院ト載ス孰レ道徳院ト号ス如キ
称徳院ト称ス公卿ノ入道シ玉ヘルニモアリ

シヤ其出松ハ詳ナラス上古四十八代称徳天皇天平神護中ノ作歌ハ後世ノ風俗ニ非ス妄ナリトスヘシ禁闕ニ移栽ニト勅アリシハ彼東大寺ノ八重櫻ヲ移シ我ノ事蹟ニ似タリ其真ヲ得難シ天野信景塩尻云聚樂毛利家ノ亭ニ紅梅アリシニ連歌ノ片法橋紹巴

梅のむ神代もきく思ひら 夢巻

九條植道公法名珍山キヨメシテ葉平カ哥ハ竜田川ニ水ノ紅ナシテクヅル下ハ神代ニモキカズト精ヲ入タル処ナリ何ソヤイツモミル物ヲ取出テ神代モキカズト云ベキ謂ナシ中比伊勢ニテ冬ノコロサクラノ花ヲ見テ

夢巻

ト云シハ所モ神風ノ國ニテ殊ニコサクラハ大神宮ノ御神木ナレハカク本歌ヲ取モヨシ毛利ハ神家ニモ有ハコソト宣ハセ玉ヒシト云云此サクラ木ノ事ハ天正慶長ノ頃ヨリモ称セシト億ヘリ雜記ニ宗祇ノ祭句トセシハ此誤傳フナルヘシ又本邑ノ婦姪スル片ハ産帶ヲ以テ鎮スル下ナシ然レトモ本尊ノ應化ニ拠テ其難ヲ免ルト方俗ノ常譚ニノ他州及本州ニ往々其奇瑞ヲ称セリ因云本邦産帶ハ俗弊ノナラヒニテ嘗テ漢土醫藉ニ論スル下ナシ紅夷モ今又其学ヲ傳ルニ鎮帶ノ下無シ

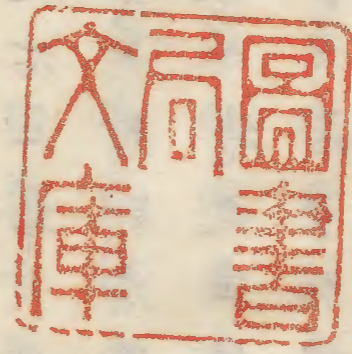
終ニ奚囊便方ニ所載ナリ然レ尋常ノ治方ニ
非ス然レハ鎮帶ヲ不習トイハレ必ス産難ノ
患ナシ本邦ノ習俗ノ弊風ニ至テハ奈何トモ
其流毒ヲ防クヲ難シ陳朝塔力奚囊便方保胎
門云初受胎之婦尤艱於慣胎者因産戸未廣必
於四五箇月前後用軟絹或帛濶七八寸自背纏
至腹以針線縫住如兜肚様晝夜不解倘長大覺
胎中有氣状方可放線三分或五分不可滿寸漸
以調之則肌肉有所束縛不使胎長極大便於産
也此方不特宜于初胎者雖慣胎亦可也胎至五
月六月兒已肥大氣行愈矣初胎ニ慣胎難艱ス
ルモノニ用ル方ニ衆婦都テ鎮帶ヲスルニ

非ス後世本邦醫家者流モ鎮帶ヲ用ストイハ
トモ其保胎ノ産難ニ至ラズ分娩スル者多端
ナリ寺家ト名ク徴ハ国史及軍藉ニ多クニ
ヘクリ觀音寺ノ牆外ニ民居ノ寺家ニ属スル
村邑ト謂ナリ其一ニ例ヲコ、ニ奉テ博覽
ノ便トス續日本紀第七靈龜元年五月庚寅詔
曰崇饒法肅敬為本營修佛窟清淨為先今聞
諸国寺家多不如法或草堂始闕爭求額題幢幡
僅施即訖田畝或房舍不修牛馬群聚門庭荒廢
ノ荆棘弥生遂使無上尊像塵穢甚深法藏不免
風雨多歷年代絶無構成事於事斟量極重崇敬
今故併兼教寺合成一區庶幾同力共造更貞類

法諸国司等宜明告国師衆僧及檀越等條錄郡
内寺家可合并財物附便奏聞 同第四十延曆
十年五月甲寅先是去延曆三年不勅禁断王臣
家及諸司寺家等專占山野之事三代實錄第七
貞觀五年九月六日乙未以山城国愛宕郡道場
一院預於定額賜名禪林寺律師傳灯大法師位
真紹申牒条云爰買故從五位下藤原朝臣関雄
東山家即便為寺家造立一堂安置五佛夫僧卜
ノ買俗家者律令之所制私立道場者格式之所
禁也 同卷十二貞觀八年三月四日庚辰大宰
府解備ノ觀音寺講師傳灯大法師位性忠申牒
寺家人清貞宗住等三人從五位下登朝臣麻

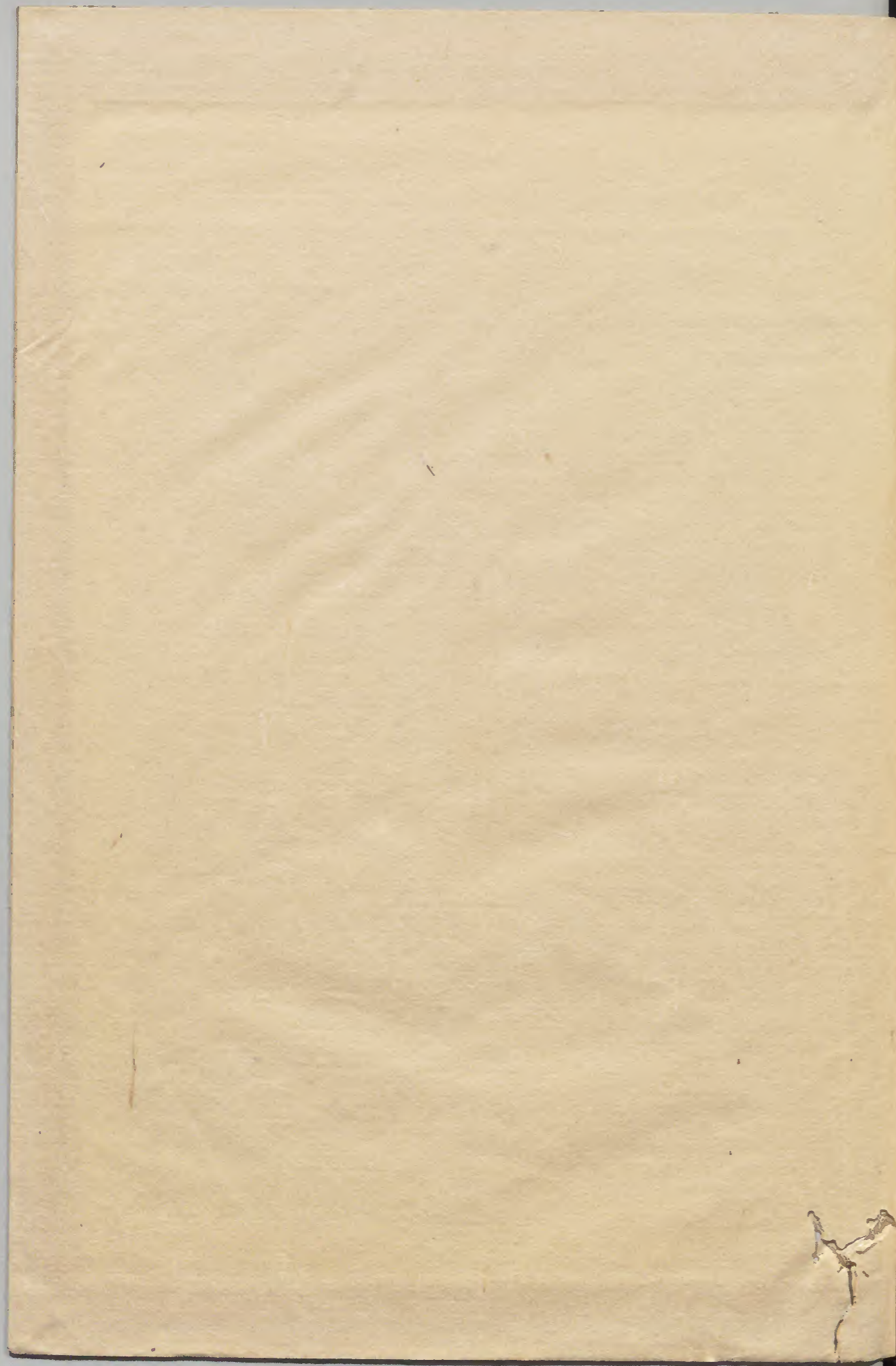
呂五代之孫也麻呂天平年中為造寺使麻呂通
寺家女赤須生清貞等即隨母為家人 東鑑第
六文治二年六月廿五日辛未條云觀喜光院領
播磨矢野別府事海老名四郎能季称地頭不堪
寺家所堪之由依被下院宣向後可止非分坤坊
之旨二品令加下知給云云 同第八文治四年
五月四日戊辰條云相摸国大井庄事延勝寺領
也於年貢者早可進寺家 又云上總国伊隔庄
事金剛門院領也於年貢早可進納寺家 同第
十九兼元二年三月朔日甲午今日高野山大塔
料備後国大田庄乃貢對捍之由寺家訴申之
百鍊抄第十五仁治三年五月十四日乙未別當

被辞申云云 困城寺 爵陶事 関東不日 心仍暫被
付寺務於寺家云云 此餘太平記等ニ見ヘタ
リコ、ニ略ス上件ノ教言ニ拠レハ寺家ハ直
ニ判院ノ事ニ充ツ其寺家ト村邑ヲ名クルモ
観音寺ノ附屬ニ准セシ名ナリト看ルヘシ



勢陽五鈴遺響菴藝郡卷之二終

紙數五拾七枚



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is mostly obscured by a large, faint red seal or stamp in the center.



